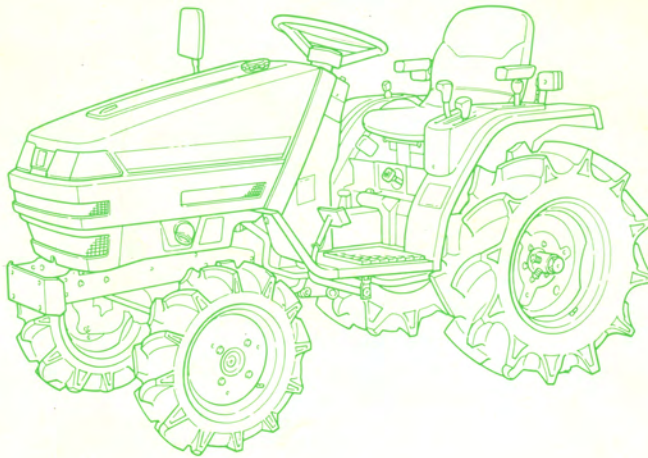




三菱トラクタ

MT135/MT155

取扱説明書





品質保証券

1. 保証期間内において、製品を構成する純正部品に、製造上の欠陥による故障発生後、1ヶ月以内にお申し出があり、弊社がこれを認めた場合に、弊社又は、お買上げいただいた弊社特約店又は、系統販売機関の修理施設において、これにかわる完全な部品を、無償で、お取替え致します。
 2. 保証期間は、製品を納入致しました日から起算して、1ケ年でこれをこえたときは、有償となります。
 3. 保証期間中の点検整備は、お手元の取扱説明書で、毎日の点検、各時間毎の手入、取扱いの項により行って下さい。
 4. 保証期間内といえども、下記の場合は、保証致しません。
 - (1) 取扱説明書に示す正しい取扱い方法によらない使い方、過失および整備保管の不充分によって生じたと認められる故障の場合
 - (2) 天災・地変・火災・および不可抗力の事故によって生じたと認められる故障の場合
 - (3) 製品の機能に影響があると認められる改造変更が加えられた場合又は、弊社の純正部品以外の部品を使用した時、及び弊社が規定する仕様の限界（取扱説明書参照）を越えて使用したために生じたと認められる故障の場合
 - (4) 使用者の一方的な都合により規定の点検整備を受けなかった場合。
 - (5) 製品使用上および保管上の消耗品。すなわち刃物、ゴム製品、布製品、ビニール製品。ガasket、パッキング類、ガラス製品、電球、ノズル、予熱栓、点火栓、割ピン、座金、ワッシャ、ボルト、ナット、クリーナ、エレメント、燃料ストレーナ、グリスニップル、ブレーキライニング、クラッチフェーシング、クラッチデスク、耕うん爪、油脂類、ヒューズ、植付爪(組)、ワイヤ、プラグ、上網、下網。
(注) バッテリ、タイヤ、各種電装品、アワメータについては、それぞれの専門メーカーの保証規定によります。
 - (6) 弊社又は、弊社関係の修理施設以外で修理した場合
 - (7) 要求の損傷部品を返却されない場合
 - (8) 保証券の指示がない場合は有償となることもあります。
5. 保証券を紛失した場合、再発行はいたしません。

納入年月日	
製品型式名	
機 番	
購入先名	

東京都千代田区神田鍛冶町3丁目6番3 神田三菱ビルディング



三菱農機株式会社



はじめに

このたびは、本製品をお買上げいただきましてありがとうございます。

この取扱説明書はあなたの機械を常に最良の状態に保ち、安全な運転作業をしていただくために、正しい取扱い方法と簡単な手入れについて説明してあります。ご使用前によくお読みいただき、十分理解してからご使用していただき、安全で上手な作業にお役立てください。

また、お読みになった後も大切に保管し、本製品を末長くご使用いただけますようにご活用ください。

なお、品質・性能向上およびその他の事情による部品等の変更で、取扱説明書の内容と一部異なる場合があります。あらかじめご了承ください。

	サービスと保証について	4
	公道走行とナンバープレートについて	5
	安全に使用していただくために必ず守っていただきたいこと	6
1	各部のなまえ	8
	1. 本機……………8	
	2. センターロータリ……………11	
	3. サイドロータリ……………12	
	各部のはたらき	13
2	運転のしかた	19
	1. 始業前の点検……………19	
	2. エンジンの始動・停止のしかた……………21	
	3. 作業機を上下させるには……………22	
	4. 作業機の降下速度の調節のしかた……………23	
	5. 発進・停止・停車のしかた……………23	
	6. 道路走行のしかた……………24	
	7. 坂道での運転のしかた……………25	
	8. ほ場への出入りのしかた……………25	
	9. 作業に適した速度の選びかた……………26	
	10. ほ場での旋回のしかた……………27	
	11. ロータリ作業の要領……………27	
	12. ロータリ耕うんのしかた……………29	
	13. デフロックの使いかた……………30	
	14. トラックへの積込み・積降ろしかた……………31	
	15. 後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた……………31	
	16. 油圧外部の取出しかた……………32	
	17. 作業機の取扱いについての 注意事項……………32	
3	JUST(ジャスト)マチック仕様について(J仕様のみ)	33
	1. 各部のなまえとはたらき……………33	
	2. 基本的な使いかた……………34	
	3. ヒューズについて……………35	
	4. 使用後の手入れ……………35	
4	作業後の手入れについて	36
	1. 作業後の手入れ……………36	
	2. 長期間使用しない場合の手入れ……………36	

手入れと点検・調整

38

- 1. 定期点検一覧表..... 38
- 2. オイル・グリス・不凍液一覧表..... 39
- 3. 給油・給水一覧表..... 39
- 4. ボンネットの開閉のしかた..... 40
- 5. 各部オイルの点検・交換のしかた..... 40
- 6. 各部エレメントの交換のしかた..... 42
- 7. 冷却水の点検・交換のしかた..... 43
- 8. 燃料の点検・給油のしかた..... 44
- 9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた..... 44
- 10. ラジエータスクリーンとエアクリーナ
エレメントの掃除・交換のしかた..... 45
- 11. バッテリの点検のしかた..... 45
- 12. パイプ類の点検について..... 46
- 13. 電気配線の点検について..... 46
- 14. グリスアップ(注入)について..... 47
- 15. ブレーキの点検・調整について..... 47
- 16. クラッチの点検・調整について..... 48
- 17. ハンドルの点検・調整について..... 48
- 18. ファンベルトの点検・調整について..... 49
- 19. ヒューズ・ヒュージブルリンクの
点検・交換について..... 49
- 20. タイヤの点検について..... 50
- 21. 排気ガスの色について..... 50

ロータリについて

51

- 1. 耕うん爪の取付けかた..... 51
- 2. スクレーパーの取付けかた..... 53
- 3. ロータリの取外し・取付けかた..... 53
- 4. 定期点検一覧表..... 56
- 5. ロータリギヤボックスオイルの
点検・交換のしかた..... 56
- 6. グリスアップ..... 57
- 7. 爪の交換時期..... 57

不調診断

58

- 1. エンジン関係..... 58
- 2. クラッチ・ブレーキ関係..... 60
- 3. 油圧関係..... 60
- 4. 電装関係..... 61
- 5. ロータリ関係..... 61

仕様

62

ロータリの仕様

63

標準付属品

64

配線図

65

安全に使用していただくために必ず守って いただきたいこと

心も身体も健康な状態で

酒を飲んだとき、過労ぎみ、病気や妊娠しているときは、作業をしないでください。

過労・病気



飲酒運転



妊娠



始業前・作業後に必ず点検を

トラクタを使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行って異常がないかをチェックしてください。

点検整備を定期的!



点検整備をするときは 必ずエンジンを停止して

トラクタの点検整備や作業機の調整をするときは、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて作業機昇降用の油圧ストップバルブを締めてから行なってください。



1012701A

1年ごとに定期点検整備を受け て、機械を最良の状態に!

機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年ごとにサービス工場定期点検・整備を受け、各部の保安を確保してください。特に、燃料パイプや、ゴムホース類、電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態安心して作業が行えるようにしてください。



1012702B

路上を走行するときは左右の ブレーキペダルの連結を確認！

道路や農道を走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを連結し、安全運転に心掛けてください。




狭い農道や傾斜地は、 スピードを落して慎重に

溝のある農道や、両側が傾斜している農道、路肩に草が生茂っている所や、雨ふりの中、または直後は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。



1012701C

この他にも、本文中にも安全で快適な作業を行なっていただくためにぜひ守っていただきたい、安全マークと注意マーク【注意】の項目を記載しております。よくお読みいただき、充分理解して必ず守って安全運転にこころがけてください。

使用マークについて



安全に作業をしていただくため、ぜひ「これだけは守っていただきたいこと」を説明しています。

【注意】

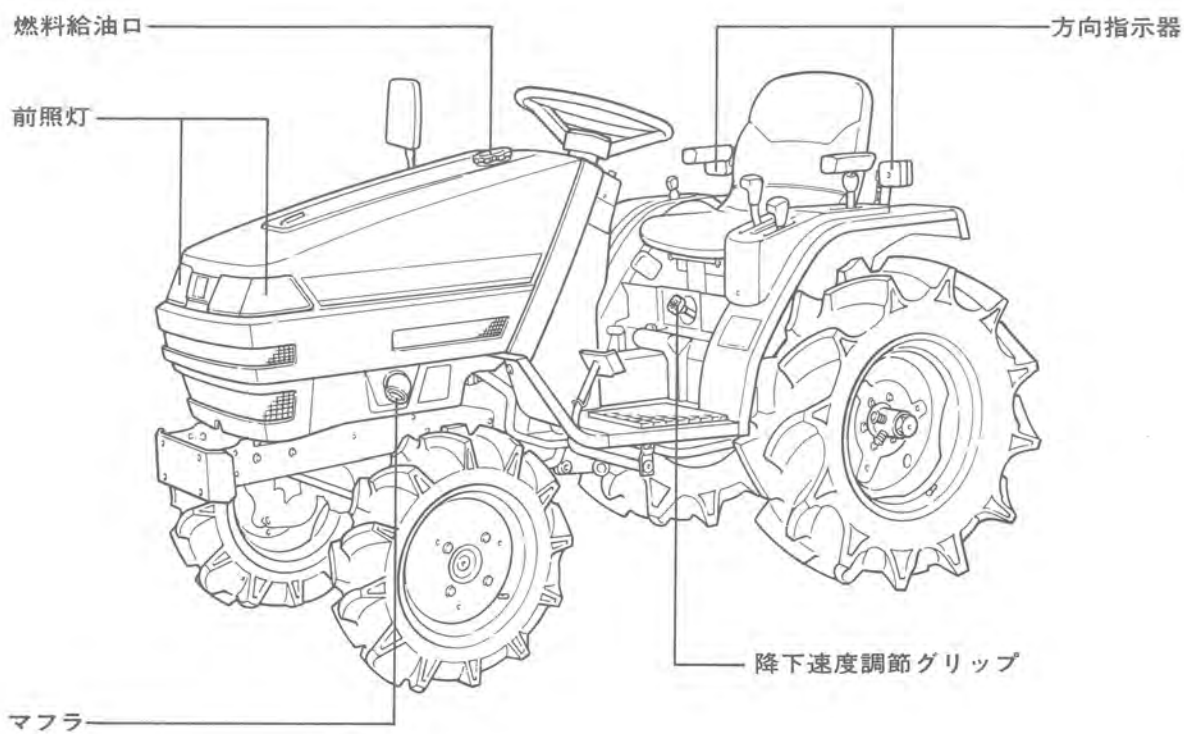
本機の作業性能を最大限に発揮させるための説明をしています。

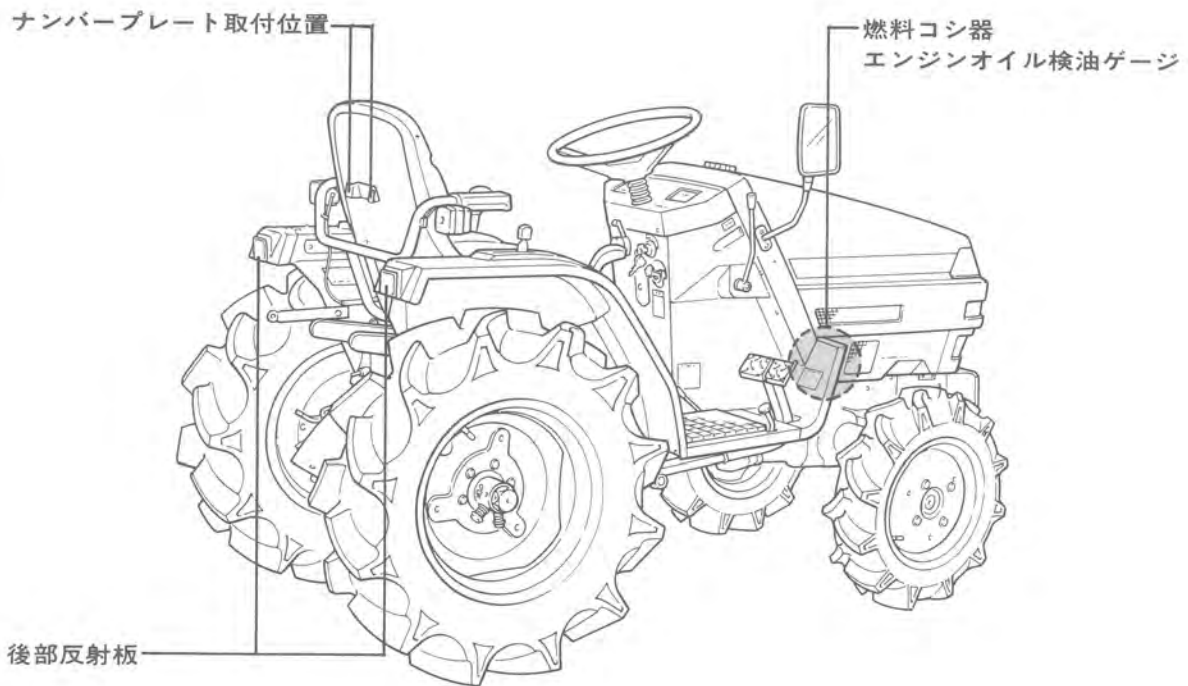


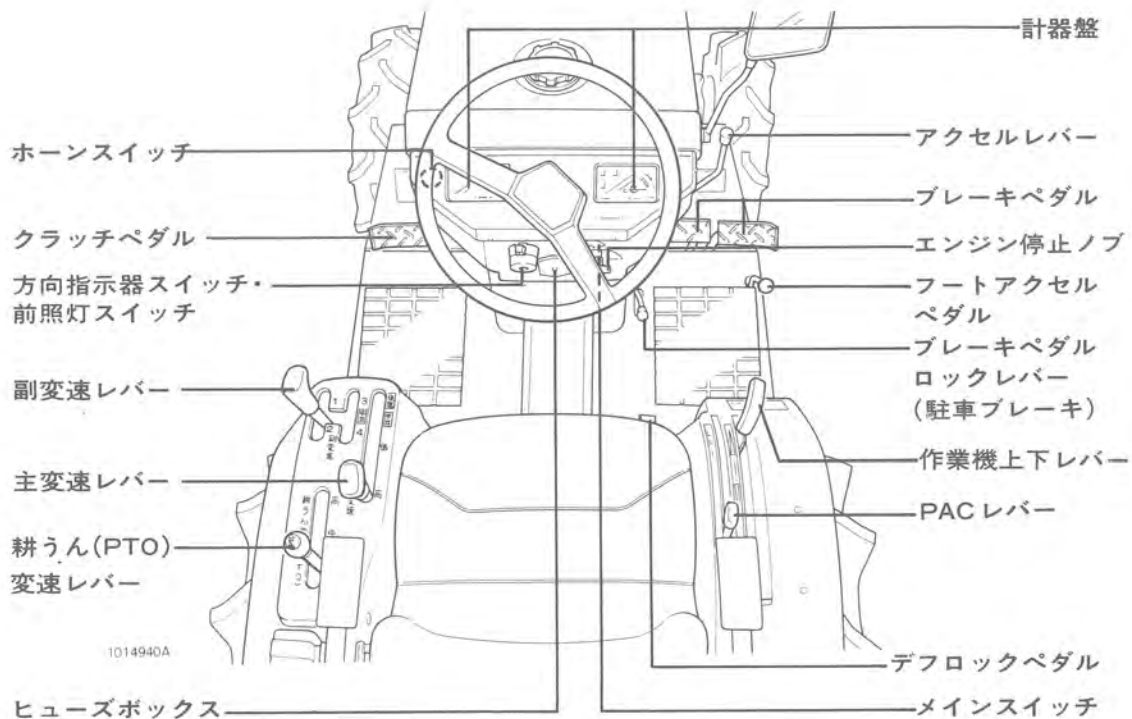
本機のどの方向から見ているか、「見ている方向」をあらわしています。

各部のなまえ

1. 本機







2. センターロータリ

加圧ロッド

リヤカバーの作業位置を調節するのに使います。

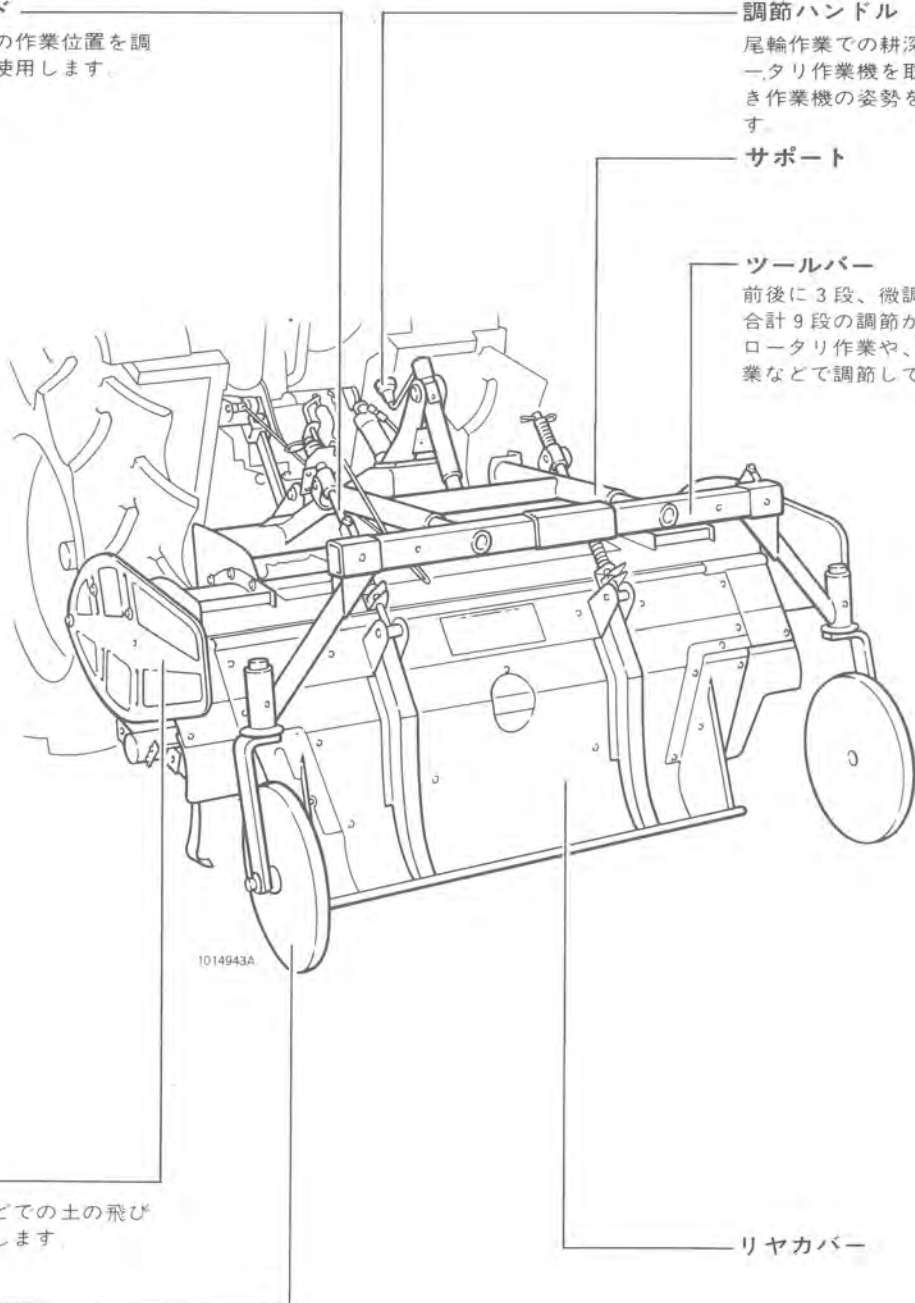
調節ハンドル

尾輪作業での耕深調節やロータリ作業機を取付けたとき作業機の姿勢を調節します。

サポート

ツールバー

前後に3段、微調整が3段、合計9段の調節ができます。ロータリ作業や、畦立器作業などで調節してください。



側板

培土作業などでの土の飛び具合を調整します。

尾輪

3. サイドロータリ

加圧ロッド

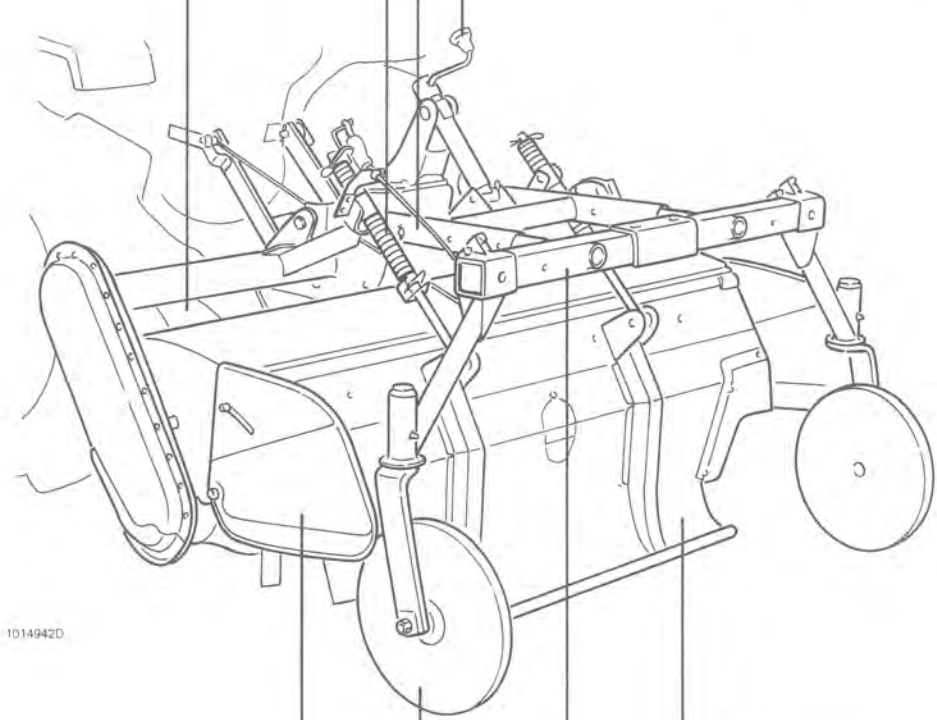
リヤカバーの作業位置を調節するのに使います。

サポートアーム

サポート

調節ハンドル

尾輪作業での耕深調節やロータリ作業機を取付けたとき作業機の姿勢を調節します。



10149420

側板

培土作業などでの土の飛び具合を調整します。

尾輪

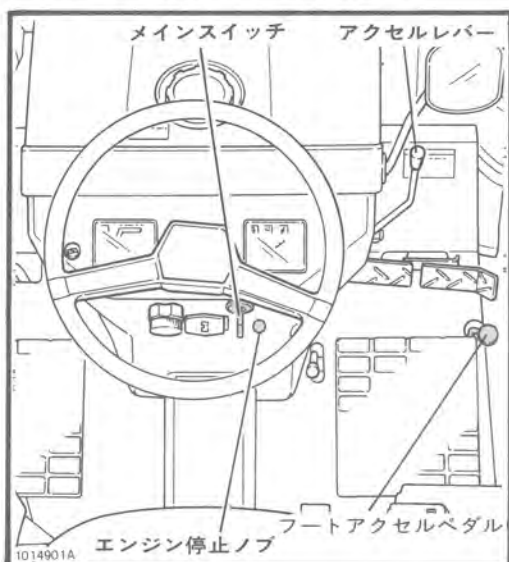
リヤカバー

ツールバー

前後に3段、微調整が3段、合計9段の調節ができます。ロータリ作業や、畦立器作業などで調節してください。

各部のはたらき — なまえとはたらきをよく覚えてください。

エンジンコントロール関係



メインスイッチ

エンジンの始動・停止に使用します。



1014918D

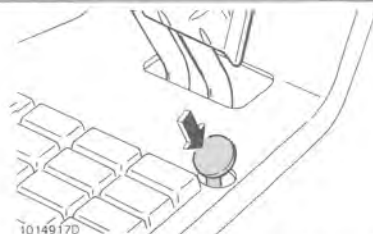
- 「停止」 電流が流れません。(キーを抜き取れます)
- 「運転」 各電装品スイッチに電流が流れます。エンジンが停止している場合、エンジン油圧ランプと充電ランプが点灯します。
- 「始動」 セルモータが回転し、エンジンが始動します。エンジンが始動しますとキーから手を離してください。キーは自動的に「運転」の位置に戻り、連続運転に入ります。

アクセルレバー



エンジン回転を上げたり、下げたりするのに使用します。一定回転で作業する場合に使用します。

フットアクセルペダル



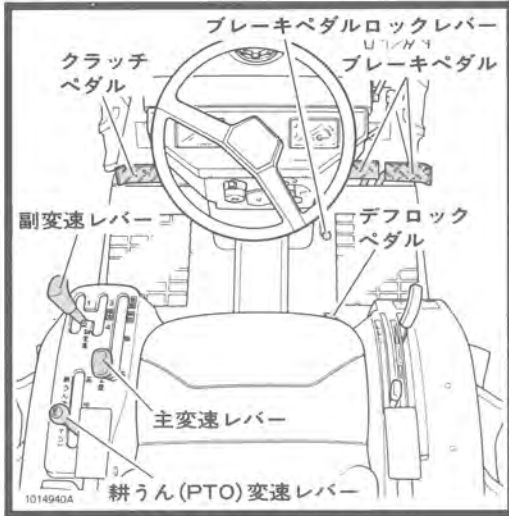
エンジン回転を上げたり、下げたりするのに使用します。主に路上走行時に使用します。

エンジン停止ノブ

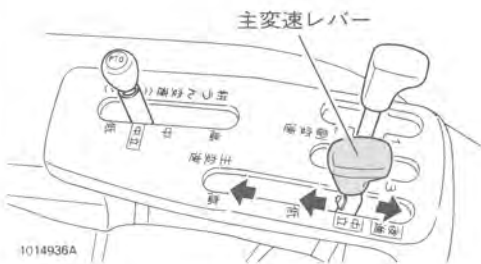


エンジンを停止するのに使用します。停止後は手で押してもどしてください。

走行・PTO関係

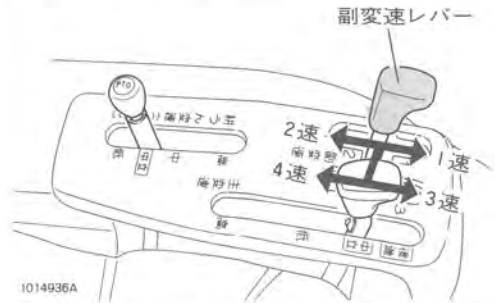


主変速レバー



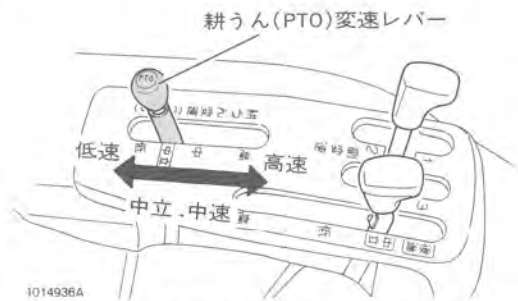
走行速度前進2段・後進1段に変速ができます。クラッチペダルをいっぱい踏込んで変速してください。

副変速レバー



4段階に変速でき、主変速との組合わせで、前進8段・後進2段の変速ができます。クラッチペダルをいっぱい踏込んで変速してください。

耕うん(PTO)変速レバー



PTO軸(動力取り出し軸)の回転数を3段階に変速できます。クラッチペダルをいっぱい踏込んで変速してください。

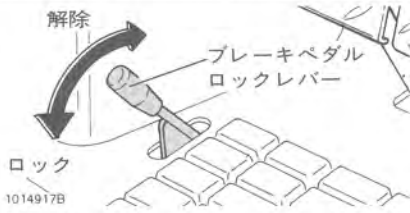
ブレーキペダル



左右それぞれ独立し、ほ場内で小回りする場合、片側づつの後輪にブレーキをかけることができます。路上走行時は必ずコネクタでペダルを連結して走行します。

各部のはたらき——なまえとはたらきをよく覚えてください。

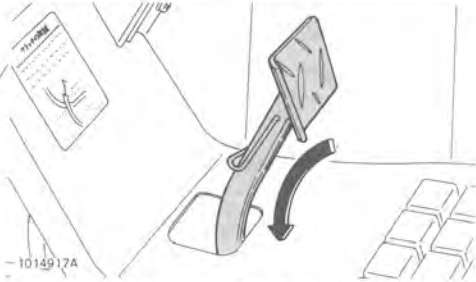
ブレーキペダルロックレバー



ブレーキペダルを踏込んでロックすれば、駐車ブレーキになります。

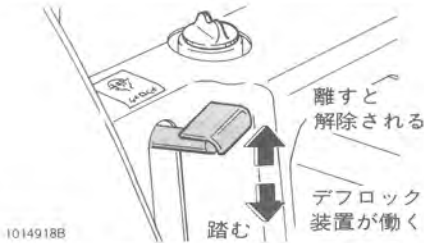
※左右のブレーキペダルは、連結しておいてください。

クラッチペダル



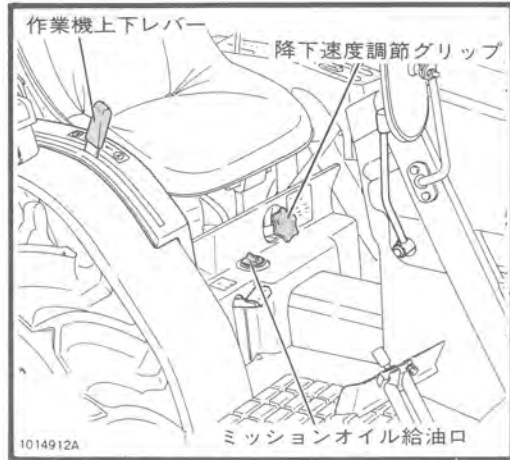
エンジンの動力を断続するのに使用します。

デフロックペダル

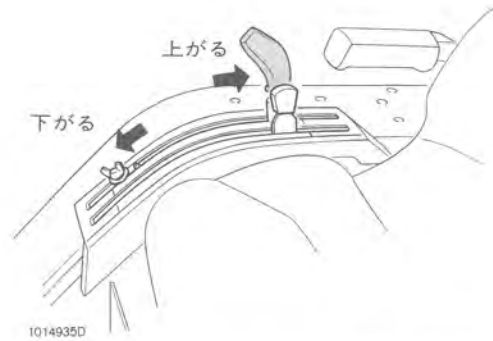


後輪の片輪が空転した場合、両車輪を一体に駆動させる装置で、スリップ防止に役立ちます。

油圧関係



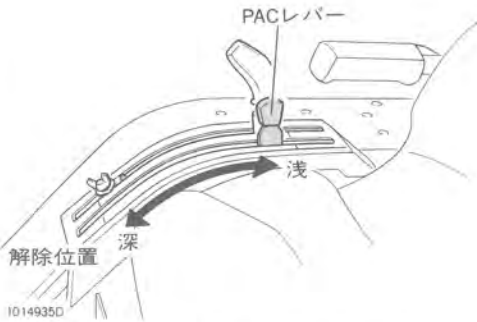
作業機上下レバー



作業機を上げ、下げするのに使用します。

各部のはたらき——なまえとはたらきをよく覚えてください。

PACレバー (耕深自動調節)



ロータリ耕うん作業での耕深調節を行います。

【注意】

- 解除位置では耕深自動調節は作動しません。

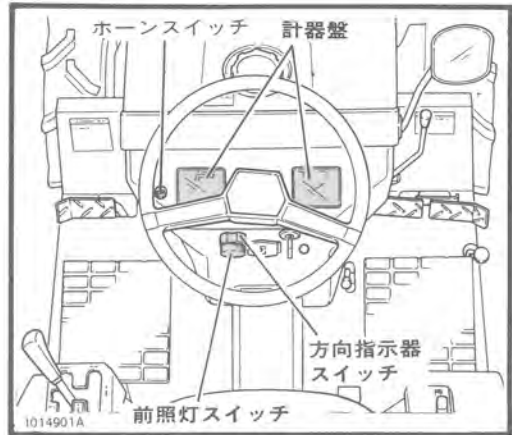
油圧降下速度調節



作業機の下降速度を調節するのに使用します。

また、右へいっぱい回すと作業機昇降装置への油圧がストップします。

電装関係



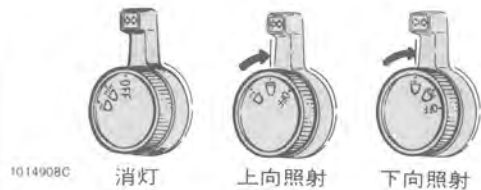
方向指示器スイッチ



メインスイッチを「運転」位置にして方向指示器スイッチを、旋回する方向に回すとランプが点灯します。

点灯しないときは、49ページを参照してください。

前照灯スイッチ



メインスイッチ「運転」で前照灯スイッチを右側に1段回わすと上向照射(2灯)、2段回わすと下段照射(4灯)になります。

点灯しないときは、49ページを参照してください。

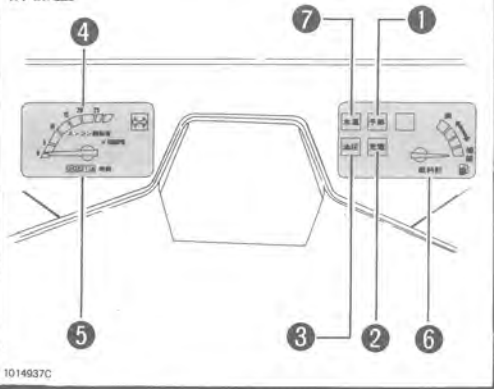
ホーンスイッチ



1014917C

メインスイッチを「**運転**」位置にして警告音ボタンを押せば、ホーンが鳴ります。鳴らないときは、49ページを参照してください。

計器盤



1014937C

① 予熱ランプ

予熱

1014914C

メインスイッチを「**運転**」の位置にすると点灯してグローに通電したことを示します。ランプが消えてから「**始動**」位置に回しエンジンを始動します。

予熱ランプ点灯時間は
 冷却水温 5℃以上…… 1秒
 冷却水温 5℃以下…… 3～4秒

② 充電ランプ

充電

1014914C

メインスイッチ「**運転**」の位置で、ランプが点灯しており、始動後エンジン回転が上がり充電し始めるとランプが消えます。ただし、エンジン回転が1000rpm以下では充電しません。充電するときは、1500rpm以上にしてください。

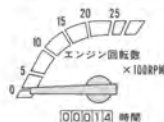
③ 油圧ランプ

油圧

1014914C

メインスイッチを「**運転**」にすると点灯し、エンジンを始動するとランプは消えます。エンジン回転中に、油圧ランプが点灯するときは、潤滑油回路に異常が発生したからです。すぐエンジンを停止して不具合箇所の原因を調べてください。

④ エンジン回転計



エンジン回転数を指針で示します。

⑤ 積算時間計

00014 時間

1014914C

トラクタの使用時間を数字で示します。右端の白枠内の数字を6倍すると「分」単位の時間となります。

⑥ 燃料計



1014937B

燃料の残量を指針で知らせます。針が補給位置を示した場合は早めに燃料を補給してください。

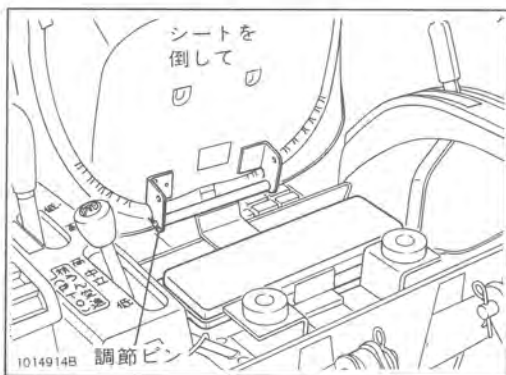
⑦ 水温ランプ

水温

運転中の冷却水温の異常を示します。水温ランプが点灯した場合は、作業を中断して点検してください。

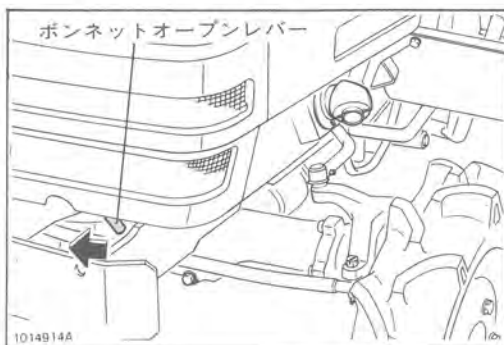
その他

ドライバーシート調節ピン



1014914B

ボンネットオープンレバー



1014914A

ボンネットオープンレバーを、左に動かすとボンネットのロックが解除されます。ボンネットを開くときに使用します。ボンネット開閉は40ページを参照してください。

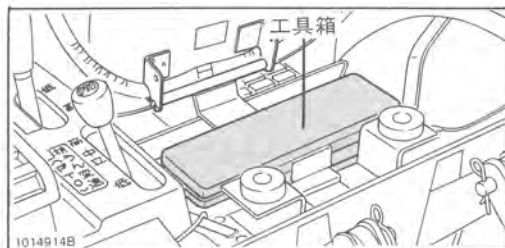
マフラ角度調節ボルト



1014914A

角度調節ボルトをゆるめて、マフラの噴出口を120°回すことができます。作業に合わせて噴出口を調節してください。

工具箱



1014914B

工具箱はシートの下にあります。

運転のしかた — 必ず始業点検を行なってください。

1. 始業前の点検

安全で快適な作業を行なうには、トラクタを使用する前に必ず始業点検を行い、異常箇所は直ちに整備してから作業を始めてください。また、作業終了時も点検を行なって異常がないかチェックしてください。

点検は次の順序で行なってください。

①前日の異常箇所

②トラクタのまわりを廻ってみて

- 各部の変形・損傷・汚れ
- タイヤの空気圧、摩耗度合、損傷…50ページ



1012702C

- 車体各部の損傷、ボルトのゆるみ

③ボンネットを開けてみて

- エンジンオイルの量と汚れ、油もれ…40ページ



1013218B

- 燃料の量と燃料もれ、燃料パイプの損傷…44・46

ページ



1013217A

- 冷却水の量と水もれ、ホースの損傷…43・46ページ



1014908D

- バッテリー液の量…45ページ



1012702D

- エアクリーナの汚れ…45ページ



1014910D

- 冷却ファンベルトの張り
と損傷…49ページ



1012703B



下記の事項を必ず守ってください。

- 点検・整備を行なうときは、必ずエンジンを停止させてから行なってください。
- エンジンが熱い間は、注油・給油は絶対にしないでください。
- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 作業機の下へもぐったり、足を踏込んだりしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいにふきとってください。

- ラジエタグリルやエンジンルーム内のほこりやゴミ…45ページ



1014909D

- 配線コードの被覆のはがれや接続部のゆるみ…46ページ



1014910B

④ロータリ側へ回ってみて

- ドライブシャフトのロックピンのPTO軸への挿入状態
- 各部のRピンの差し込み状態
- 爪取付ホルトのゆるみ
- ロータリギヤボックスのオイル量…39ページ

⑤運転席に座ってみて

- ブレーキの作動具合と遊び量…47ページ



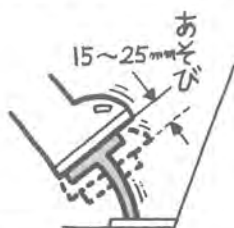
1012704B

- ハンドルの遊び量…48ページ



1013217C

- クラッチペダルの作動具合と遊び量…48ページ



1012704B

⑥エンジンを始動してみて

- エンジン始動後の異音



1014906C

- 排気ガスの色…50ページ



1014906D

- ランプ・メータ類の作動…48ページ

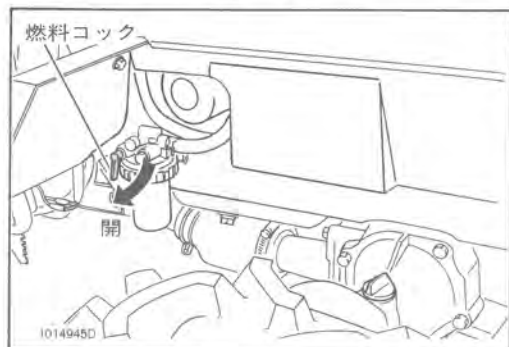


1014905D

2. エンジンの始動・停止のしかた

始動のしかた

- ①燃料コックを「開」にします。



- ②主変速レバーを「中立」、耕うん(PTO)変速レバーを「中立」位置にします。
③作業機上下レバー「下」、または「中立」の位置にします。



【注意】

作業機は下がっているが、作業機上下レバーが「上」にある場合に、エンジンを始動すると、作業機が急に上がることがあり、危険です。

- ④アクセルレバーを「最高回転」にします。
⑤メインスイッチを「運転」位置にして、予熱ランプが消灯してからクラッチペダルをいっぱい踏込んで、メインスイッチを「始動」位置にします。

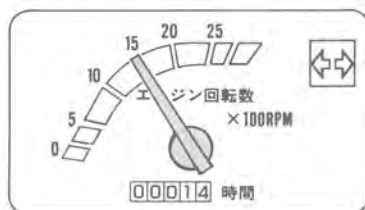
- ⑥エンジンが始動したら、すみやかにメインスイッチから手を離してください。



※エンジンが暖まっているときは、予熱ランプは瞬時に消えます。

※安全スイッチの働きによりクラッチペダルを踏込まないとセルモータが回りません。

- ⑦エンジン回転を1500rpmぐらいに下げ、約5分間は負荷をかけずに暖機運転を行なってください。



【注意】

- セルモータは、大電流を消費しますので、10秒以上の連続使用は絶対にしないでください。
(10秒以内で始動しなかった場合は、いったんスイッチを切って1分以上休止してから、⑤の操作を繰返してください。)
- エンジン回転中は、絶対にメインスイッチを「始動」位置にしないでください。



下記の事項を必ず守ってください。

- エンジンを始動する前に、始業点検を行なってください。
- エンジン始動時は、レバーの位置と周囲の安全を確認してください。
- 必ず運転席に座ってエンジンを始動してください。
- エンジン始動時は、締めきった室内で行なわないでください。
- 暖機運転中は、必ず駐車ブレーキをかけてください。

停止のしかた

- ①アクセルレバーを「低速回転」位置にして、エンジン停止ノブを引きますと、エンジンが止まります。
- ②メインスイッチを「停止」位置にして、キーを抜き取ります。



1014910A

3. 作業機を上下させるには

作業機を上下させるには、作業機上下レバーを使用します。



4. 作業機の降下速度の調節のしかた

作業機の降下速度を調節する場合は、降下速度調節グリップを「左」方向に回すと作業機は速く降り、逆に「右」方向に回すと作業機の降下速度は遅くなります。

右方向にいっぱいまで回すと油圧がストップされ、作業機は下がりません。

作業機の降下速度が速くなる



1013225D

【注意】

- 走行するときは、ストップバルブを開いておいてください。
- 油圧をストップさせたまま、作業機昇降レバーを操作しないでください。

+ 下記の事項を必ず守ってください。

- 作業機の下へ入るときは、危険防止のため降下速度調節グリップをいっぱいに締めて油圧をストップしてください。

5. 発進・停止・停車のしかた

発進のしかた

- ① ブレーキペダルがコネクターで、左右連結されていることを確認します。
- ② アクセルレバーでエンジン回転を約1500回転ぐらいにします。
- ③ 作業機上下レバーを「上」位置にして、作業機を最高位置に上げます。
- ④ クラッチペダルを踏込んで、副変速レバー・主変速レバーを希望の位置に確実に入れます。速度は26ページを参照してください。



1014942C

- ⑤ クラッチペダルをゆっくり離しますと、トラクタが動きはじめます。

停止・停車のしかた

- ① アクセルレバーを低速側に戻して、スピードを落とします。クラッチペダルとブレーキペダルを踏み込んで停止し、主変速レバーを「中立」位置にします。
- ② 左右のブレーキがコネクターで連結されていることを確認し、ブレーキを踏込んでブレーキロックレバーを引いて、ブレーキをロックします。
- ③ 作業機を取付けている場合は、作業機上下レバーを「下」の位置にします。



1014910C

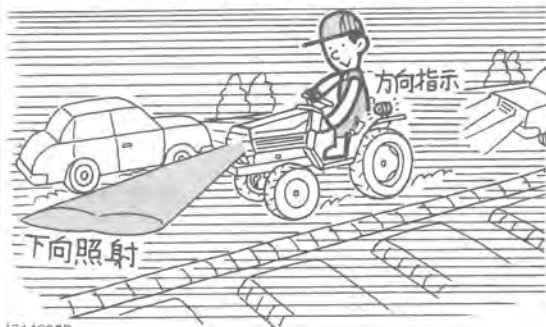


下記の事項を必ず守ってください。

- 発進するときは、周囲の安全を確かめて発進してください。
- 走行するときは、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。

6. 道路走行のしかた

- 耕うん (PTO) 変速レバーを「中立」位置にして、必ず左右のブレーキペダルを連結してください。
- 走行スピードはアクセルレバー (フートアクセルペダル) で調節してください。
- 進路変更するときは、方向指示器によって進行方向を他の車に知らせなければなりません。
- バックミラーで後続車に注意し、追越しの妨害にならないようにしてください。
- 夜間走行時、対向車とすれ違うときは、前照灯スイッチを下方照射とし、対向車の妨害にならないようにしてください。
- 狭い農道や傾斜地、路肩に草が生い茂っている所は、路肩に十分注意して、スピードを落して走行してください。



1014907D



下記の事項を必ず守ってください。

- 道路走行するときは、関係法規を守り、安全のためヘルメットを着用してください。
- 運転者の他に人を乗せないようにしてください。
- ロータリなど作業機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。必ず作業機を取外して走行してください。

7. 坂道での運転のしかた

坂道では、スピードに十分注意して、ゆっくりと走行してください。急な下り坂ではエンジブレーキを活用してください。坂の途中ではクラッチペダルを踏まないでください。トラクタがすべり落ちて大変危険です。また、上り坂で発進する場合は、遅い変速位置に入れ、エンジン回転を落してゆっくりと発進してください。急発進すると、前輪がはね上がり大変危険です。変速は坂を登りつめてから、希望する変速位置に入れ直してください。坂の途中で停車する場合は、ブレーキロックレバーでブレーキペダルをロックし、主変速レバーを「中立」位置にして停車してください。トラクタを離れる場合は、エンジンを停止して、車輪に歯止めをしてください。



1014907A



下記の事項を必ず守ってください。

- 坂道では主変速を中立にしたり、クラッチを切ったりして走行しないでください。
- 坂道では駐車しないでください。やむをえず駐車するときは、駐車ブレーキをかけ、車輪に歯止めをしてください。

8. ほ場への出入りのしかた

ほ場への出入りは、ほ場に対して、直角に出入りしてください。登り始めは、作業機を低くして重心を下げ、トラクタの前・後輪があぜにあがると同時に作業機を上げてください。



10132110

【注意】

- ほ場への出入りは、急傾斜ではバックで上がってください。
- ブレーキペダルは必ず連結してください。

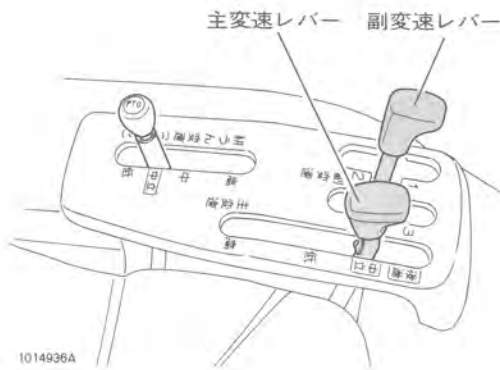


下記の事項を必ず守ってください。

急傾斜のほ場へ出入りや溝越え時は、十分強度のあるあゆみ板を使用してください。

9. 作業に適した速度の 選びかた

主変速レバーと能率変速レバーの組合わせにより、前進8段・後進4段の変速ができます。右表を参考にして作業に合った速度を選んでください。



1014936A

車速 (km/h)

変速 段数	副変速	主変速	車 速 (km/hr)	
			135型	155型
1	1	低	0.72	0.74
2		高	1.10	1.13
3	2	低	1.42	1.47
4		高	2.16	2.22
5	3	低	4.36	4.49
6		高	6.62	6.82
7	4	低	8.53	8.80
8		高	13.0	13.4
R1	1	後進	0.54	0.55
R2	2	後進	1.06	1.09
R3	3	後進	3.24	3.34
R4	4	後進	6.34	6.54

変速段数	適 応 作 業
1	荒起し
2	細土
3	畦立・マルチ
4	掘取 代かき
5	中耕培土
6	播種 トラクタ・スキ
7	施肥・播種
8	トラクタ 道路走行

10. ほ場での旋回のしかた

旋回するときは、エンジンの回転を落とし、ゆっくりなめらかに旋回してください
ほ場での旋回は、左右ブレーキペダルを連結させているコネクタを外し、ハンドルを切ると同時に旋回しようとする側のブレーキペダルを踏込むと、小回りができます。作業機は上げて旋回してください。



1014907B



下記の事項を必ず守ってください。

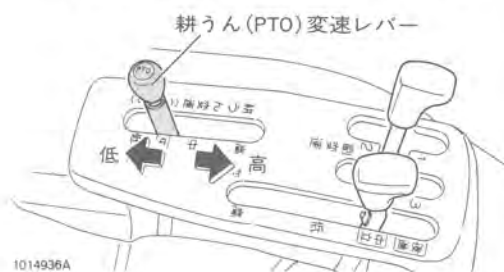
デフロックを入れたままで旋回しないでください。

旋回の前に必ず解除してください。

11. ロータリ作業の要領

運転操作の手順

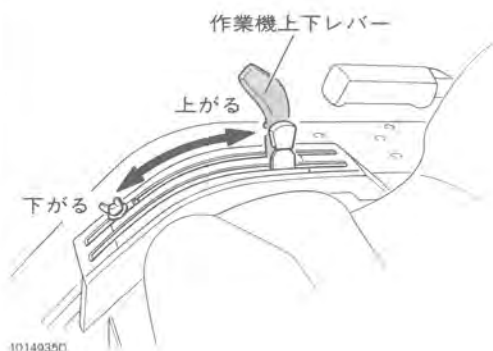
- ①ロータリ爪の回転数を、耕うん(PTO)変速レバーで、ほ場の条件、作業に合わせて下表を参考にして選んでください。



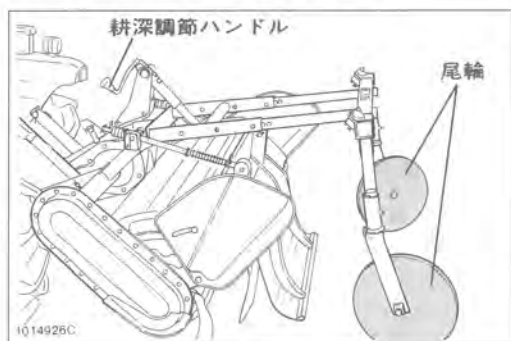
1014936A

本機型式	爪軸変速	PTO回転速度 r.p.m.	サイド爪軸 回転速度 r.p.m.	センタ爪軸 回転速度 r.p.m.
135型	高	1191	359	359
	中	771	233	233
	低	584	176	176
155型	高	1191	359	359
	中	771	233	233
	低	584	176	176

- ②ロータリの上げ・下げは、作業機上下レバーで行なってください。



- ③ 耕深の調節は、耕深調節ハンドル、またはPACレバーで行ないます。



【注意】

- ロータリ装着時の移動走行では、耕うん (PTO) 変速レバーを中立にし、ロータリを上げ、移動してください。
- 後退するときや、旋回するときは、必ずロータリを上げてから行なってください。
- あぜ越えなどを行なう場合は、爪軸の回転を止めて、作業機上下レバーを下げる位置にしたままのぼり、のぼりきったらロータリを上げてください。また、あぜが高い場合は、後進の低速で行なってください。
- ロータリなど作業機を装着して走行する場合、トラクタ前部が軽くなるのでハンドル操作に注意してください。

PACロータリ

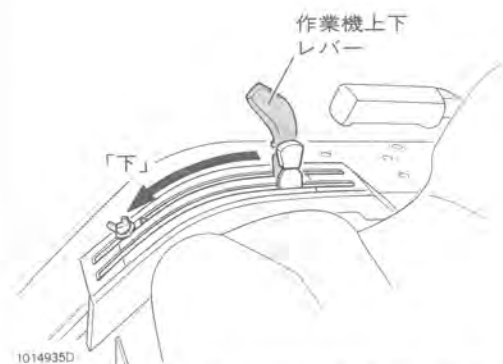
J仕様は、「JUSTマチック仕様について」(33ページ)を参照してください。

PACロータリは、凸凹の多いほ場でも、耕深が一定になる機能です。

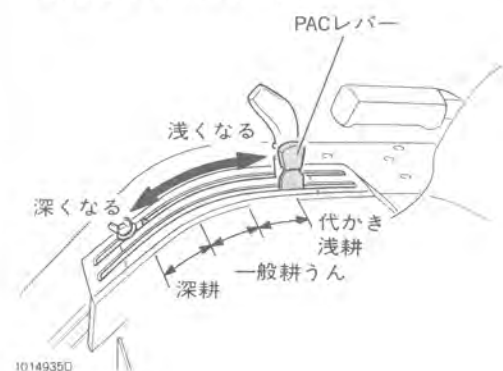
一般耕うん、代かき作業などに効果を発揮します。

次の要領で耕深を設定してください。

- ① 作業機上下レバーを「下」位置(最下げ)にしてください。



- ② PACレバーで、下図を参考にして耕深を設定してください。



【注意】

- 目盛は深さを合わせるための目安です。同じ目盛でも、ほ場条件により深さが変わります。

- ③作業機上下レバーで、作業機の上下をおこないます。
- ④耕うん作業を始めて実際の耕深を見ながら、希望の耕深にPACレバーで調節します。



1013214D

【注意】

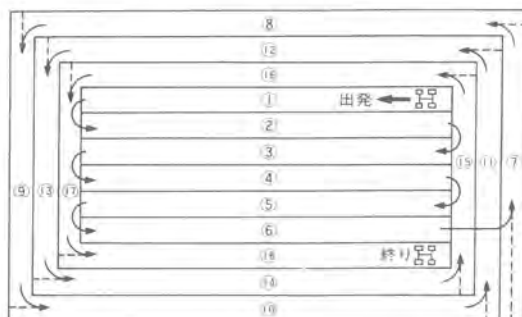
- 加圧ロッドのピン穴位置は、一番上になります。

12.ロータリ耕うんのしかた

- ①前輪タイヤ、後輪タイヤの輪距は、標準状態にしてください。
- ②作業条件により、車速は1～4速で爪回転を1～2段にして耕うんを始めます。
- ③耕うん方法は数種類ありますが、ほ場の条件によって適切な耕法を選んでください。一般的には、ロータリ耕うんは隣接耕が標準です。
- ④いずれの耕法による場合でも、トラクタの旋回できるだけの枕地と同じ幅を、ほ場の両側に残して内側から作業を始めます。(目安として耕作地の周囲を約2.6m残します)
- ⑤耕うん時は、前・後輪タイヤがすでに耕うんしたところに落ちないように、気をつけながら運転します。
- ⑥サイドドライブロータリは、右サイドフレーム側があぜぎわによるようにして、耕うんすると残耕が少なくなります。

<隣接耕うんの順序>

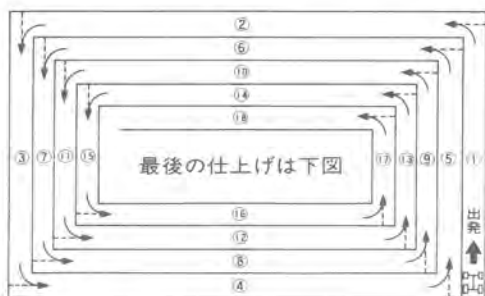
- 一般的なロータリ耕うん方法です。
- 図のような順序をとるのは、いちど耕うんした所を後輪タイヤで踏まないための、最善の方法です。
- したがって出発点は、トラクタが最後に外へ出る場所によって決まります。



1013222C

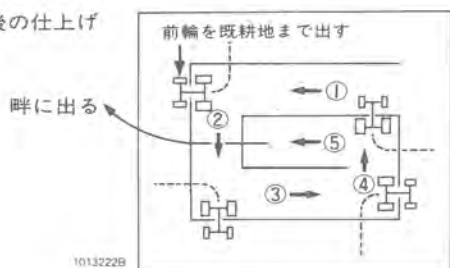
<回り耕うんの順序>

- 弱湿田または湿田地で、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。
- 耕うん順序は外周部から仕上げていきます。
- トラクタが最後に出る場所は、畔に近い所から出てください。



1013220A

最後の仕上げ



1013222B

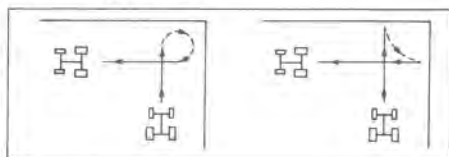
<一畦置き耕うんの手順>

一畦置き耕うんは、小回りのむずかしい場合に用いる方法です。その他は隣接耕うんと同じです。



1013222C

<トラクタの方向転換>



1013223A

13. デフロックの使いかた

デフロックペダルを踏むと、差動装置がロックされ左右の後輪が同じ回転速度で駆動されます。ペダルから足を離すとロックが自動的に解除されます。

湿田地や、ぬかるみからの脱出など片車輪がスリップして走行がしにくいときに使用すると効果があります。

上手に使用すると非常に役立ちますが、使用法を誤ると、事故や故障の原因となりますので、注意してください。



1013216C

【注意】

- デフロックを入れるときは、エンジン回転を下げてから行なってください。
- 抜けにくいときは、クラッチを切るか、ブレーキペダルを軽く踏んでください。



下記の事項を必ず守ってください。

デフロックを入れたままで旋回しないでください。

14.トラックへの積込み・積降ろしのしかた

- ①十分な強度と長さのあゆみ板を使用します。
- ②ブレーキペダルは必ず連結してください。
- ③能率変速レバーを「低」、主変速レバーを「R」位置でエンジン回転を低速にして積込んでください。
- ④途中でエンジンがストップした場合は、一旦下まで降りてエンジンを再スタートしてください。

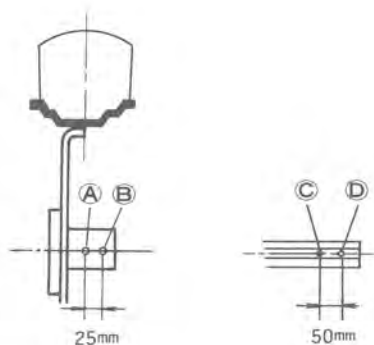


15.後輪車輪幅(輪距)の調節のしかた

作業の種類・作物の条間に合わせ、トラックの車輪幅を調節してください。また、傾斜地作業やけん引作業には、車輪幅を広げて使用してください。

- ①駐車ブレーキをかけ前輪に歯止めをした後、ジャッキを使って車体を上げ、ファイナルケースに支持台をかませて、後輪を浮かせてください。
- ②調節は、六角車軸上をスライドさせて行ないます。

	135型	155型	組合せ位置
トレッド	750mm	800mm	③ ②
	800mm	850mm	③ ①
	850mm	900mm	④ ②



1014942B



下記の事項を必ず守ってください。

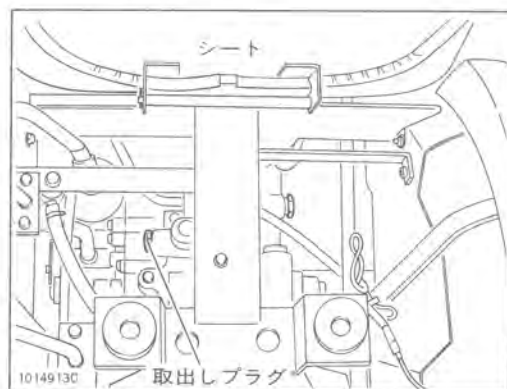
作業中、車体が転倒しないように、支持台は硬くて強いものを使用してください。

16. 油圧外部の取出しかた

ダンプトレーラなど単動シリンダーの場合シリンダヘッド左横の六角プラグPF $\frac{3}{8}$ を外し、作業機側のホースを取付けます。

〈操作要領〉

- ①作業機上下レバーを「下」または「中立」位置にします。
- ②降下速度調節グリップを「閉」方向にいっぱい締めます。
- ③作業機上下レバーを操作して、作業機を動かします。



※油圧作業機の詳しい取付けかたは、各作業機の取扱説明書を参照してください。

17. 作業機の取扱いについての注意事項



下記の事項を必ず守ってください。

- 作業機の着脱は、平坦な場所など安全な場所で、安全な方法で確実に行ってください。とくに夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いるなど、安全に留意して行ってください。
- トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。
- 重い作業機を連結または装着した場合には、トラクタにバランス・ウエイトを付けて、バランスの良い状態を保ってください。
- 運転者が運転装置を離れて、作業機を調整する場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、また、エンジンを停止し、かつ、耕うん(PTO)変速レバーが「中立」位置にあることを確認したうえで行ってください。
- けん引作業をするときは、必ずけん引ヒッチ(オプション)を使用し、他の所で引張らないようにしてください。
- PTO軸を使用しないときは、必ずPTO軸カバーを取付けておいてください。
- けん引作業、傾斜地での作業などは、輪距を広くして使用してください。
- 低速回転用作業機を高速回転ですると危険です。作業機指定のPTO回転速度を守ってください。
- トレーラをけん引する場合、トレーラ側のブレーキを連動し、坂の途中での変速はさけてください。
- 作業機を装着すると、かなりの長さになりますので、旋回時は近くの作業員や障害物に注意してください。

JUSTマチック仕様について(J仕様のみ)

1. 各部のなまえとはたらき

手動レバー

トラクタ本機の傾きに関係なく作業機の傾きを制御します。

手動・自動切換スイッチが「自動」位置では、手動レバーを「左下」・「右下」側に倒すことで作業機の傾きを任意に制御できますが、手動レバーから手をはなすと再び自動運転に戻ります。

作業機上下レバーを最上げ位置では、手動レバーを倒しても作業機の傾きは変わりません。

手動・自動切換スイッチ

傾斜センサの働きを「自動」「手動」に切換えるのに使います。

●「手動」にすると…

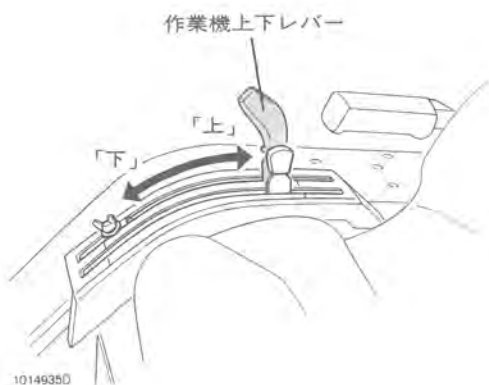
本機の傾きに関係なく、手動レバーの操作で作業機の姿勢を制御できます。

作業機を上げても、作業機の姿勢はそのままです。

●「自動」にすると…

作業機上下レバーを「下げ」にすると、作業機をスイングダイヤルでセットした角度に保ちます。

作業機上下レバーを上げると自動運転を中断し、作業機は本機とほぼ平行になります。



スイングダイヤル

自動・手動切換スイッチが「自動」のときには、トラクタが傾いても常に作業機の姿勢をダイヤルで任意に設定した角度に保ちます。

作業機センサ用微調整ボリューム
作業機の水平を微調整するのに使います。

〈調整のしかた〉

①水平な場所で、作業機を地面から5～10cm浮かした状態で、手動・自動切換スイッチを「自動」にして、スイングダイヤルを中央位置(水平)にセットします。

②微調整ボリュームを⊖ドライバーで回し、作業機が水平になるように調整します。

本機センサ用微調整ボリューム (ゴムキャップの中)

手動・自動切換スイッチが「自動」の位置で作業機を上げたとき、本機側のセンサを微調整するのに使います。

〈調整のしかた〉

①平坦な場所で、作業機を地面から5～10cm浮かした状態で、手動・自動切換スイッチを「自動」にして、スイングダイヤルを中央位置(水平)にセットします。

※水平でない場合は、作業機が水平になるように作業機センサ用微調整ボリュームで調節します。

②手動・自動切換スイッチを「手動」にしてゴムキャップを外し、本機センサ用微調整ボリュームを調整します。

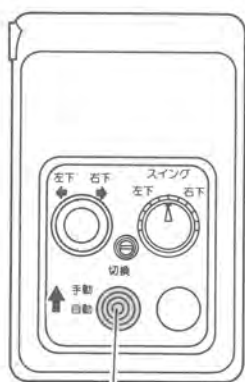
(本機センサ用微調整ボリュームでの調整は、その都度、切換スイッチで「自動」「手動」に切換えながら行ってください。)

2. 基本的な使いかた

路上走行のとき

路上走行するときは、作業機が自然に下降したり、傾いたりしないように、次の処置を行なってください。

- ①JUSTマチックの手動・自動切換スイッチを「手動」にしてください。

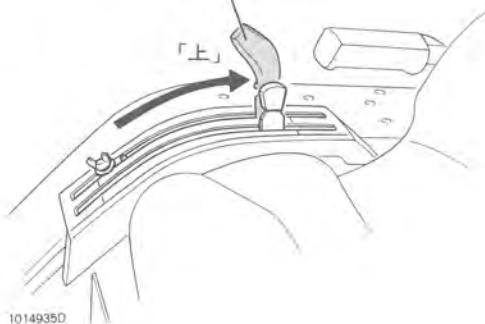


1026901B

手動・自動切換スイッチ

- ②作業機上下レバーを、最上げ「上」位置にして作業機を上げてください。

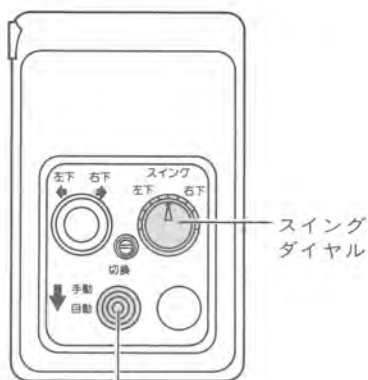
作業機上下レバー



1014935D

ロータリ作業

手動・自動切換レバーを「自動」位置にし、スイングダイヤルで作業内容に適した、作業機の角度姿勢を設定してください。

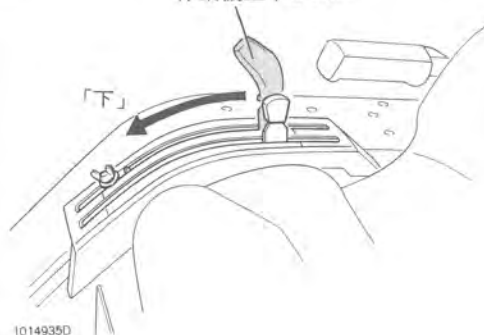


1026901B

手動・自動切換スイッチ

作業機を下げると「自動」運転になり、スイングダイヤルで設定した角度姿勢を保ちます。

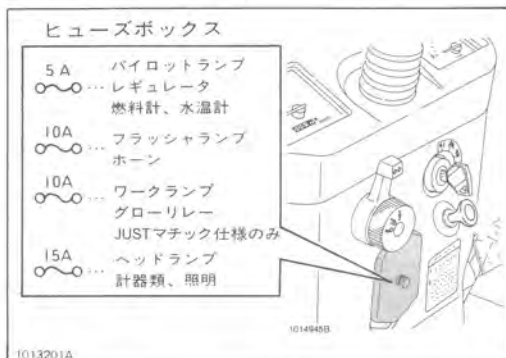
作業機上下レバー



1014935D

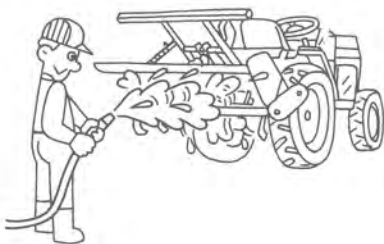
3. ヒューズについて

ハーネスのショートなどにより、JUSTマッチック関係のヒューズが切れた場合は、ヒューズボックス内の10 Aヒューズ(上より3番目)を交換してください。

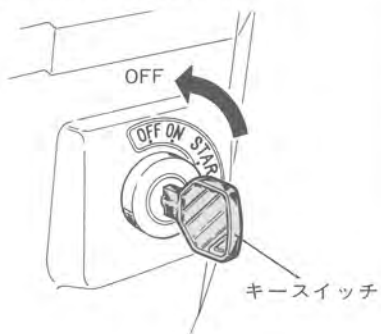


4. 使用後の手入れ

使用後洗車する場合(特に高速洗車)は、コントロールボックス・電磁バルブ・センサー類への直接洗車はさけてください。



長期間保存の場合は、必ずキースイッチを「OFF」にしておいてください。



作業後の手入について

—正しい手入れを行なってください。

1. 作業後の手入れ


その日の内にトラクタを水洗いし、水洗い後は水分を良くふき取って、各回転部・摺動部にたっぷり油をさしてください。

各グリス注入部(グリスニップル)には、グリスアップを行なってください。

【注意】

電装品にはできるだけ水をかけないようにしてください。故障の原因となります。



 下記の事項を必ず守ってください。

シートをかける場合は、エンジン停止後約10分間放置して、エンジンが冷えたことを確認してからかけてください。

2. 長期間使用しない場合の手入れ

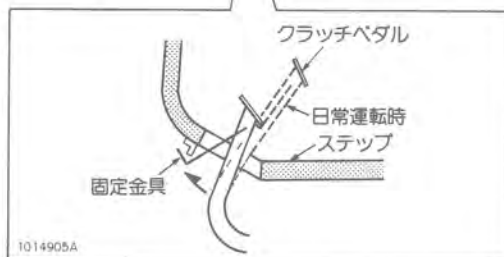
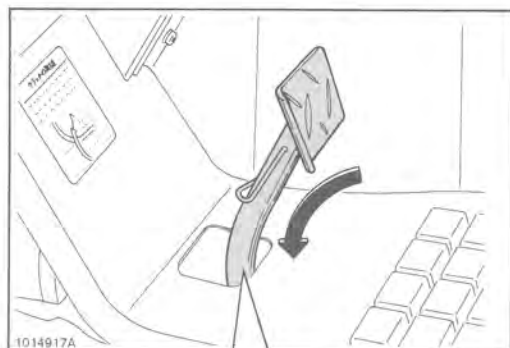
トラクタを長時間使用しない場合は、次の要領で整備し、格納してください。

- ①乾燥した風通しの良い所で、ウェイト等は取外し、ロータリも取外すか、降した状態にして、下には板を敷いてください。



- ②外部の錆びやすい部分に、防錆油または、エンジンオイル・グリスを塗ってください。
- ③燃料タンクに燃料を満タンにしてください。空にしておきますと水滴ができ、サビの原因になります。
- ④バッテリーを完全充電し、なるべく本機から取外し、風通しの良い冷暗所に保管してください。また、本機に取付けたまま保管するときは、必ずアース側(一側)を外してください。
- ⑤冷却水を抜き取ってください。
- ⑥エアクリーナ・マフラー・エンジンオイル給油口などから湿気が入らないよう、ポリエチレンなどの袋で密閉してください。

- ⑦クラッチは、クラッチの錆付きを防止するため、クラッチを踏込んだ状態でクラッチペダルロックをかけてください。再び、踏込むとロックは解除されます。



- ⑧タイヤには、前・後輪とも、正規の空気圧にしてください。

【注意】

バッテリーは、使わなくても自然放電します。1カ月に1度は充電器で完全充電してください。

長期間使用されない間に、保守整備契約制度による、点検整備をお受けになりますと、次期使用時に最良の状態でご使用いただけます。



手入れと点検・調整

—定期的に正しい点検をしてください。

定期点検や整備は、農閑期に行ない農繁期には機械の性能が十分発揮され、安全で快適な作業が行なえます。機械の整備不良による事故などを未然に防止するために、1年毎にサービス工場で定期点検・整備を受け、

各部の保安を確保してください。特に燃料パイプや、ラジエータホースなどのゴムホース類や電気配線は2年毎に交換するようにして、常に機械を最良の状態で安心して作業が行なえるようにしてください。

1. 定期点検一覧表

アワメータ表示時間 実施項目	20 30 時間目	50 時間目	100 時間目	150 時間目	200 時間目	250 時間目	300 時間目	350 時間目	400 時間目	450 時間目	500 時間目	550 時間目	600 時間目	参照 ページ
各部グリスアップ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	47
バッテリー液量点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	45
エアクリーナエレメント点検(交換)	○	○	○	○	○	○	○	○	交換	○	○	○	○	45
ミッションオイル点検(交換)	○	交換	○	○	交換	○	○	○	交換	○	○	○	交換	41
燃料パイプおよび結合部の点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	46
エンジンのブリーザパイプの点検	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
冷却ファン・ラジエータのゴミつまりの掃除	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
電気配線の点検*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	46
重要ボルトナットの点検(増締)	○	○	○		○		○		○		○		○	
冷却ファンベルトの点検	○	○	○		○		○		○		○		○	49
エンジン潤滑油交換・点検		交換	交換	○	交換	○	交換	○	交換	○	交換	○	交換	40
バッテリー液比重点検および補充電			○		○		○		○		○		○	45
ステアリング各部締付点検	○		○		○		○		○		○		○	
燃料コシ器の洗浄(交換)			○		○		交換		○		○		交換	42
ラジエータ内部の掃除			○		○		○		○		○		○	43
ミッションオイルコシ器洗浄(交換)		○					○						交換	42
潤滑油コシ器の交換		交換					交換						交換	40
燃料パイプ・電気配線の交換	2年毎に交換													
ラジエータホースの点検・交換	2年毎に交換													
エンジンオイルエレメント交換		交換	交換		交換		交換		交換		交換		交換	42
エンジnakランクケースの洗浄													○	
吸排気弁間隙の点検													○	
燃料噴射弁の点検													○	
発電機、始動電動機の点検											○			
油圧装置の点検											○			

*1 50時間毎に点検を基本としますが、使用時間が満たない場合は1年毎に行なってください。

*2 交換の必要なものは、使用時間に達してなくても2年毎に交換してください。



下記の事項を必ず守ってください。

- 点検・整備をするときは、エンジンを確実に停止させ、車輪に歯止めをしてください。
- 点検・整備などで取外したカバー等は、必ず取付けてください。

手入れと点検調整 — 定期的に正しい点検をしてください。

2. オイル・グリス・不凍液一覧表

燃 料	ディーゼル軽油 JIS 2号または3号軽油を使用してください。		
エンジンオイル (新SAE、CC級) (JIS K2216 2種 DG または DM)	純 正 油	マルチSTOUオイル(10W-30)	その他一流メーカーのオイルでAPIサービス分類CC、CD級オイルをお使いください。
	全 農	クミアイエンジンオイル(ディーゼル用)	
	三 菱 石 油	ダイヤモンドHDS-3 ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	
ミッションオイル 油圧兼用 (APIサービス分類 GL-4級以上のオイルで湿式ブレーキ 適正のあるもの。)	純 正 油	マルチGBオイル	(80W)
	"	マルチSTOUオイル	(10W-30)
	三 菱 石 油	ダイヤモンドファームギヤオイルB	(80W)
	"	ダイヤモンドファームユニバーサルオイル	(10W-30)
	全 農	クミアイトラクタオイル	(80W)
サイドロータリチェーン ケース専用グリス	コ ス モ 石 油	ダイナマックスEP#0相当品 500g	300時間毎に交換してください。
不 凍 液 (JIS K2234 2種) (パーマナントタイプ)	ロングライフクーラント		工場出荷時は34%混合(-15℃基準)としております。

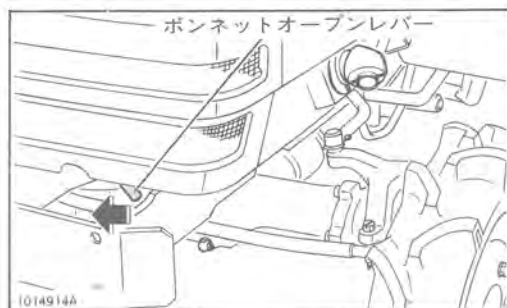
3. 給油・給水一覧表

		種 類	
燃 料		13 l	ディーゼル軽油
冷 却 水	ラジエータ	4.0 l	清水・不凍液
	サブタンク	0.4 l	清水・不凍液
エンジンオイル		2.9 l	
ミッションオイル		7.0 l	
フロントアクスルオイル		2.4 l	ギヤオイル#90

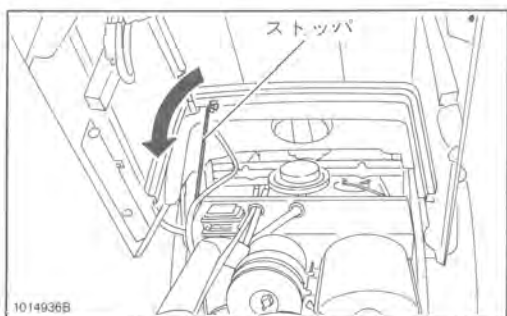
4. ボンネットの開閉のしかた

ボンネットの開閉のしかた

- ①ボンネットオープンレバーを左に動かすと、ボンネットのロックが解除されます。



- ②両手でボンネットを持ち上げて、ストッパで固定します。



- ③ボンネットを閉じる場合は、ボンネット前方上面を両手で「カチッ」と音がするまで強く押してください。

【注意】

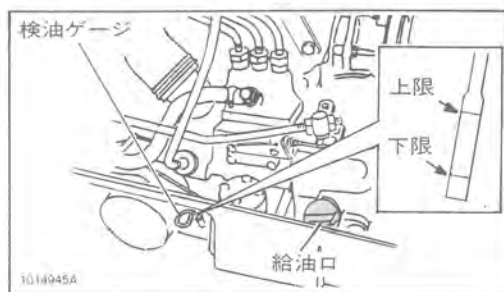
- ボンネットを閉じるとき、両手で押す前にボンネットが正しい位置にあることを確認してから閉じてください。
- ボンネットをねじったりして、押し下げないでください。
- ボンネットを閉じる場合は、必ず両手で押さえてください。
- ボンネットを高い位置から、強く落下させないでください。

5. 各部オイルの点検・交換のしかた

エンジンオイル

点検

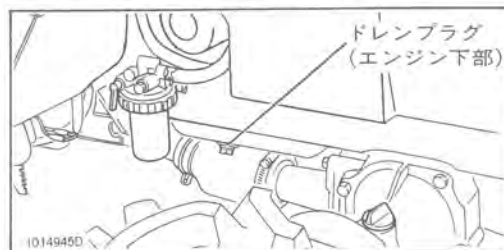
エンジン部右側の燃料コシ器横の検油ゲージを抜いて、先端をきれいにふいて差し込み、再び抜き、ゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口より検油ゲージ規定量まで入れてください。なお、油もれのないことも調べてください。



交換

エンジン下部のドレンプラグから排油してください。給油はエンジンの給油口からしてください。

エンジンオイルは、定期的に交換すると同時に、気温・使用状況に合わせてエンジンオイルを使いわたることが大切です。



【注意】

- 排油のときは、オイルが少しあたたかに行なってください。
- オイルの量は、エンジン始動前か冷えているときに調べてください。

ミッションオイル

点検

運転席下の検油ゲージを抜き、ゲージの先端をきれいにふいて差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。なお、油もれのないことも調べてください。

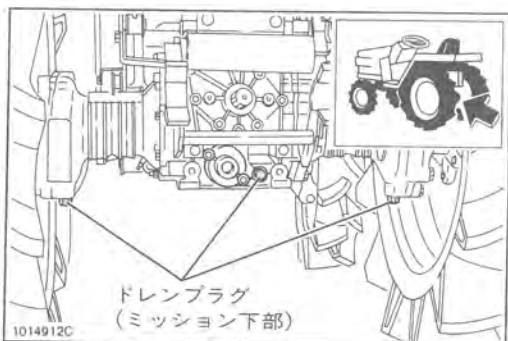


交換

ミッションケース左下とリヤアクスルケース下部のドレンプラグ左右から排油してください。

オイルを抜くときは、ミッションが冷えない内に抜くときれいに抜けます。給油は運転席下部の給油口からしてください。

※ミッションオイルは、油圧オイルと併用しています。



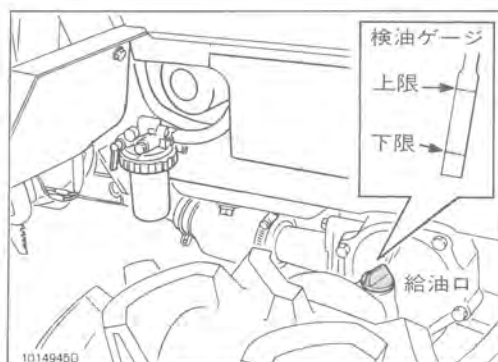
ドレンプラグ
(ミッション下部)

1014912C

フロントアクスルオイル

点検

フロントアクスル右側上部の給油口のふたをはずして、ゲージの先端をきれいにふき、ネジ込まない状態で差し込み、再び抜いてゲージの上限と下限の間にオイルがあるか調べます。不足しているときは、給油口よりゲージの規定量まで入れてください。なお、油もれのないことも調べてください。

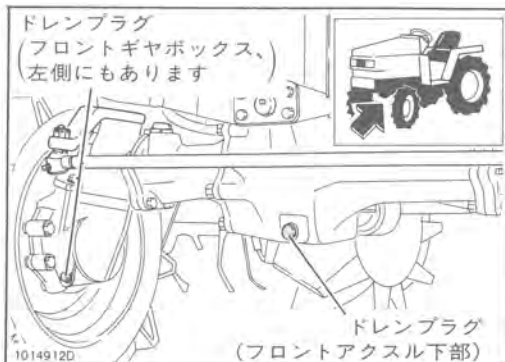


10149450

交換

フロントアクスル下部の左右ドレンプラグとセンタードレンプラグの3箇所から排油してください。

給油はフロントアクスル右側上部からしてください。



ドレンプラグ
(フロントギヤボックス、
左側にもあります)

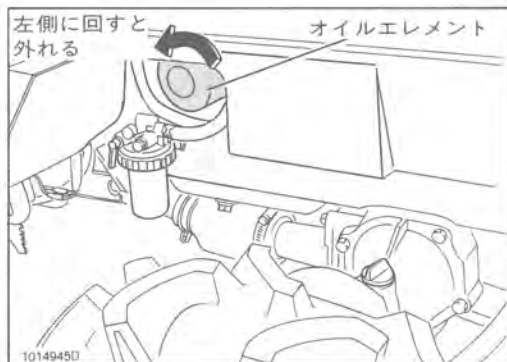
ドレンプラグ
(フロントアクスル下部)

1014912D

6. 各部エレメントの交換のしかた

エンジンオイルエレメント

100時間毎にエレメントを取替えてください。

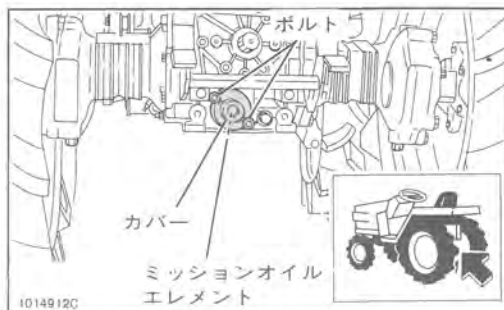


交換

- ①エンジンオイルを抜き取った後、カートリッジをフィルタレンチで左側に回して外します。
- ②新しいカートリッジの底面にあるゴムリングにオイルを薄くぬり、フィルタレンチで確実に取付けてください。
- ③エンジンオイルを交換後、エンジンを始動して油圧パイロットランプが消えるまで回してください。
※30秒以上回しても、パイロットランプが消えない場合には、油圧スイッチの不良が考えられます。
- ④油圧パイロットランプが消えたら、もう一度検油ゲージでオイル量の点検をし、不足していれば、補給します。

ミッションオイルエレメント(スクリーンタイプ)

オイルエレメントは、スクリーンタイプになっています。

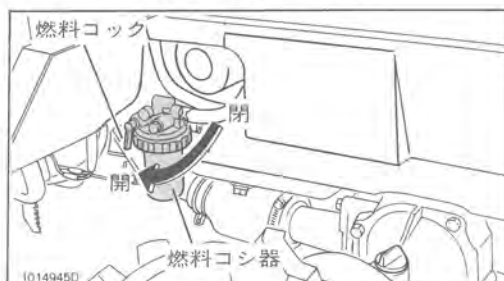


清掃

- ①ミッションオイルを抜き取った後、ボルト2本をとってカバーをはずしてください。
- ②中にエレメント(スクリーン)がありますので、手で抜いてください。
- ③軽油または、灯油の中できれいにゴミを取り除いてください。
- ④組付時、カバーのOリングにグリスを塗布して、確実に取付けてください。

燃料コシ器エレメントの清掃・交換

- ①燃料コックを「閉」にします。
- ②ナットを回してコシ器を外し、コシ器内の水・ゴミを取除きます。
- ③コシ器の洗浄が終わったら元通りに取付け、燃料コックを「開」にし、燃料エア抜きを行ないます。(燃料のエア抜きのしかた44ページを参照してください。)



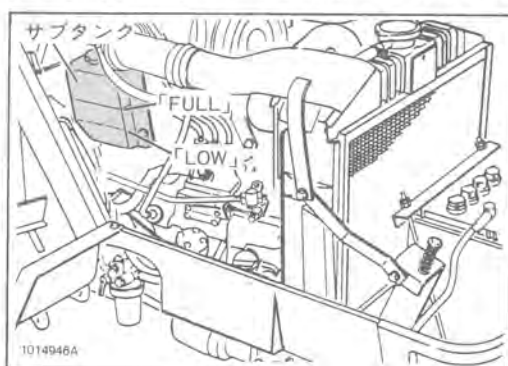
- ④コシ器内のエレメントは、300時間毎に交換してください。

7. 冷却水の点検・交換のしかた

点検

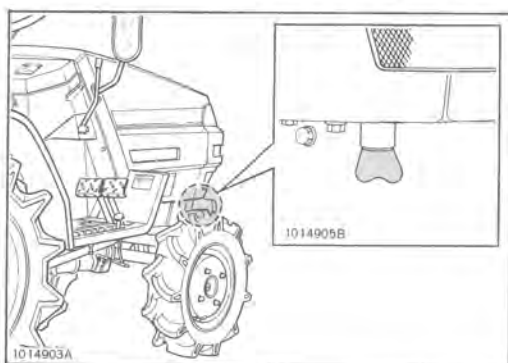
ボンネットを開け、サブタンク内の水が「FULL」から「LOW」の範囲にあるか調べてください。

不足しているときは、サブタンクの給水口よりきれいな水道水を給水してください。なお、水もれがないことも調べてください。



交換

- ① ラジエータキャップとドレンプラグを外し、ラジエータ内の水を全て抜きます。



- ② 水道水で、ゴミや錆が出なくなるまでラジエータ部を洗います。
※ラジエータ洗剤を混合した水を入れ、15分以上エンジンを空回転させてから、水を抜き取ると、ラジエータ内はいつもきれいになります。
- ③ ドレンプラグを取付け、不凍液を必要量入れてから、清水をあふれるまで入れます。

- ④ ラジエータキャップをし、エンジンを始動して、不凍液と清水をよく混合します。
<不凍液の取扱いについて>

不凍液は、水の凍結温度を下げる効果を持っています。出荷時には、オールシーズンクーラント A (日本石油) を使用しています。なお、不凍液の混合比によって凍結温度が異なりますので、厳寒地帯等においては下表を参照の上、安全な濃度で使用してください。

なお、工場出荷の耐寒温度は -15°C を基準としております。

不凍液混合率表

外気温度($^{\circ}\text{C}$)	-5	-10	-15	-20	-25	-30
比率						
水 (%)	82	73	66	61	55	49
不凍液 (%)	18	27	34	39	45	51

【注意】

- 新しい冷却水と交換するときは、必ず防錆液を入れて、5分間エンジンを空回転し、防錆液の混合を早めてください。
- 混合比は、メーカーによって多少異なりますので、メーカーの取扱書の指示にしたがってください。
- 冷却水が自然に不足した場合には、清水だけを入れてください。(セミパーマネントタイプを使用しているときは、比重を測定して、確認してください。)
- 不凍液の有効期限は1年です。毎年新しい不凍液と交換してください。



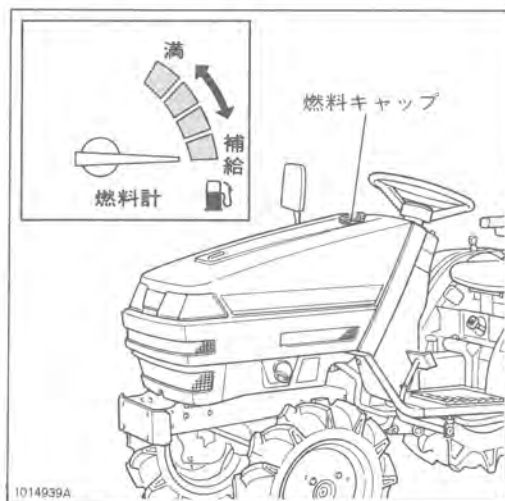
下記の事項を必ず守ってください。

ラジエータキャップは、エンジン運転中や停止直後に開けないでください。エンジン停止後、10分間ほどたってエンジンが冷えてから開けてください。

8. 燃料の点検・給油のしかた


メインスイッチを「運転」位置にして、燃料計が補給位置を指示したら、燃料キャップをはずして給油口より満タンに入れてください。

なお、ボンネットを開け、燃料もれのないことも調べてください。



【注意】

給油するときは、タンク内のこし網を必ずつけてください。

 下記の事項を必ず守ってください。

- 燃料補給時は、くわえタバコ・裸火照明は絶対にしないでください。
- 燃料を補給したときは、燃料キャップを確実に締め、こぼれた燃料はきれいに拭きとってください。

9. 燃料の空気(エア)抜きのしかた

燃料切れを起し、エンジンが停止したとき点検整備で、燃料コシ器エレメント、燃料配管を外したときは、次の手順で燃料の空気(エア)抜きをしてください。

- ① 燃料タンクに燃料を補給します。
- ② 燃料コックを「開」にします。
- ③ 燃料コシ器のエア抜きボタンを、フィルタ内の空気(エア)がなくなるまで押します。
- ④ 燃料噴射ポンプのスクリュをゆるめ、流れ出る燃料に空気(エア)が混らなくなったらスクリュを締めます。奥のナットはゆるめないでください。
- ⑤ ゆるめたスクリュが確実に締めてあるか確認します。

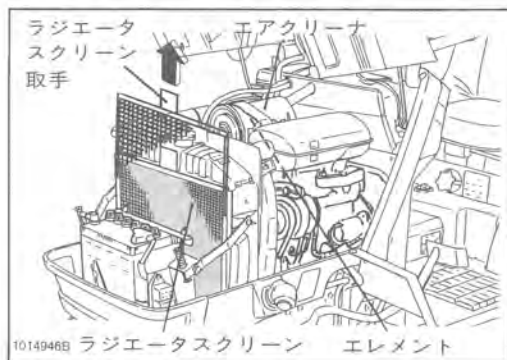
以上でエア抜きは完了です。



- ⑥ アクセルレバーを最高回転位置にし、メインスイッチを「始動」位置にしてセルモータを回しますとエンジンが始動します。エンジンの始動のしかたは、13ページを参照してください。始動しない場合は、③～⑥を繰返してください。

10. ラジエータスクリーンとエア クリーナエレメントの掃除・ 交換のしかた

エアクリーナは、吸入された空気に含まれている砂塵を取り、シリンダライナ・ピストンリングの摩耗を防ぎエンジンをいつも快調にする装置です。ホコリの多い所で作業するときは、50時間毎に掃除・400時間ごとに交換してください。普通の所でも100時間毎に掃除・1000時間毎に交換してください。規定時間になってなくても、1年間でエレメントを交換してください。



〈エアクリーナエレメントの掃除のしかた〉

蓋を取外し、中のエレメントを抜き取り、エレメントの内側から、空気を吹き付けるか、振動を与えて塵を落します。フィンに傷を付けないよう気をつけてください。

〈ラジエータスクリーンの掃除のしかた〉

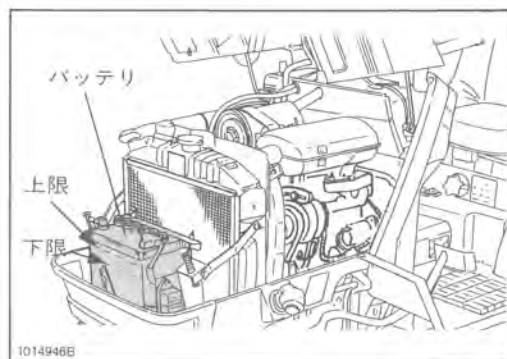
ラジエータスクリーンの取手を上に引きあげると取外せます。

ワラズやホコリを取り除いてください。

始業前、始業後に掃除してください。

11. バッテリーの点検のしかた

バッテリーの上限と下限のラインの間に液があるか調べます。不足している槽があれば蒸留水を上限のラインまで補給してください。



【注意】

- バッテリー各槽に、液を入れすぎると、充電時にバッテリー液が吹き出し、トラクタの金属部を腐蝕させます。
- 急速充電は、できるだけ避けてください。
- バッテリーを充電するときは、バッテリーを本機より取外して上部6個の蓋をはずして充電してください。

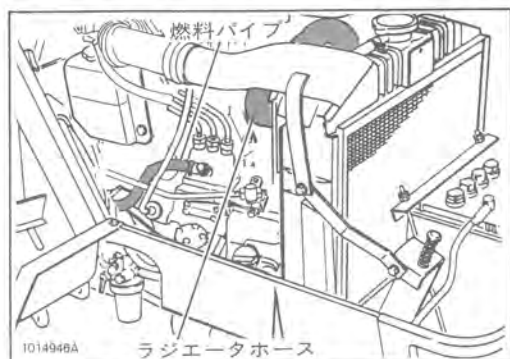


下記の事項を必ず守ってください。

- バッテリーの点検時、液槽キャップを開けたときは、火気厳禁です。
- バッテリー液を身体や服につけないようにしてください。付着したときは、すぐに水で洗い流してください。
- バッテリーの取付は⊕側から、取外しは⊖側からはずしてください。
- バッテリーを交換するときは、必ず取扱書の指定した容量のバッテリーを使用してください。

12. パイプ類の点検について

燃料パイプ、ラジエータホースなど傷んで燃料もれ、水もれがないか、また、締付バンドがゆるんでないかも調べてください。傷んでなくとも2年毎に交換してください。



【注意】

燃料パイプを交換したときは、空気(エア)抜きをしてください。



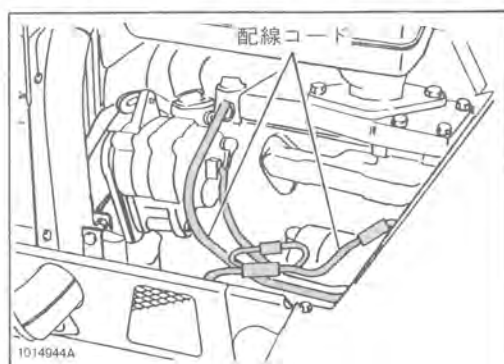
下記の事項を必ず守ってください。

燃料パイプの老化や、傷による燃料もれがあると火災の原因になります。作業前後に点検し、もれがあれば交換してください。

13. 電気配線の点検について

ボンネットを開け、電気配線コードが他の部品に接触して被覆のはがれや傷、または、接続部のゆるみがないかを調べてください。傷んでいる場合は、販売店などで修理してください。

傷んでなくとも使用時間50時間毎、または1年毎で定期点検を受けてください。

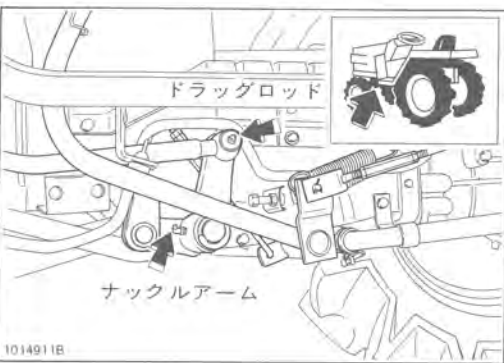
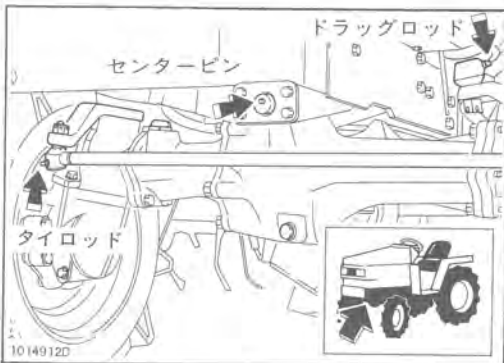
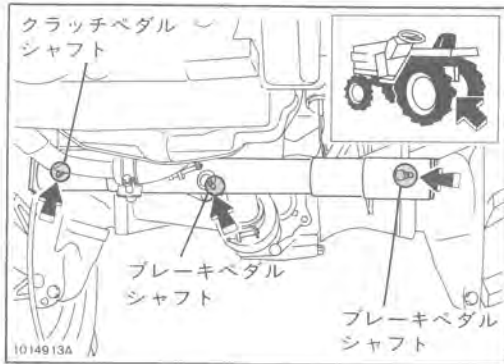


下記の事項を必ず守ってください。

バッテリーや配線に付着しているワラズやゴミは、作業前、作業後にきれいに取除いてください。

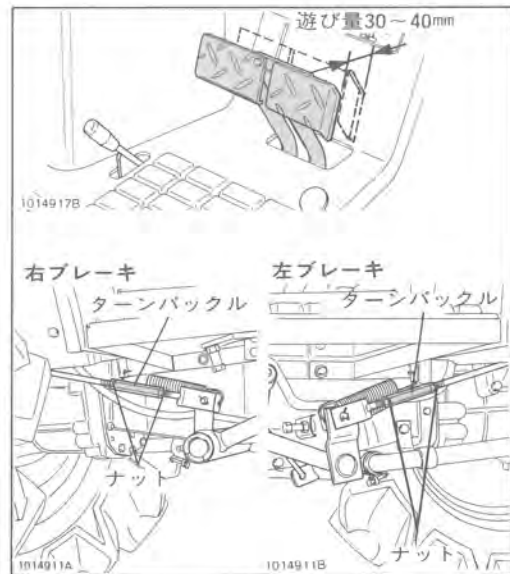
14. グリスアップ(注入)について

グリスアップは、50時間毎に行っていただきますが、作業に入る前に、各箇所のグリスの点検を行ない、必要ならばグリスアップしてください。また、代かき作業等で泥水に入った後は、作業終了後必ずグリスアップしてください。



15. ブレーキの点検・調整について

ブレーキペダルを踏み込んで、規定量の遊び(30~40mm)と左右が同時に効くかを調べてください。規定量の遊び量でない場合は、左右の遊び量が30~40mmになるように、ブレーキペダル後方にあるターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締付けてください。また、ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、駐車ブレーキロックが確実に作動することを確認してください。



【注意】

左右のブレーキペダルの遊び量が5mm以上異なると、ブレーキの片ぎきが生じ危険です。常に、左右の遊び量が同一であるようにしてください。

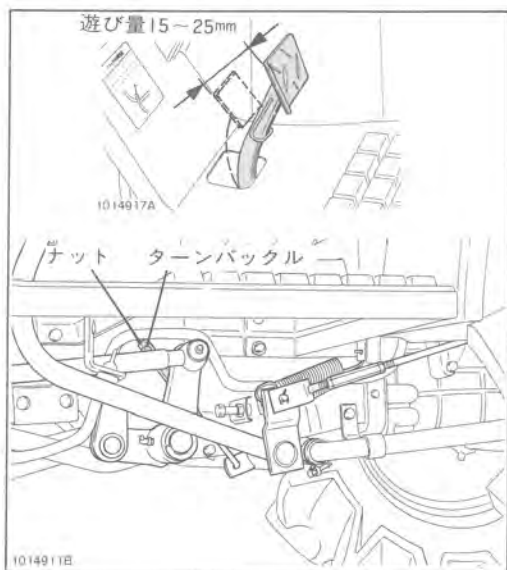


下記の事項を必ず守ってください。

ブレーキのききが悪かったり、片ぎきなどがあると転落、転倒事故の原因となります。必ず作業前に点検してください。

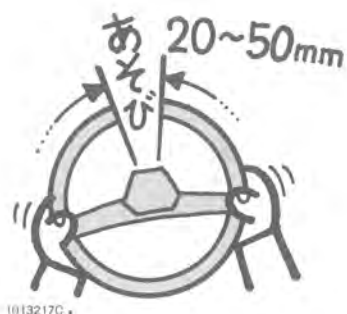
16. クラッチの点検・調整について

クラッチペダルを踏み込んで、規定量（15～25mm）の遊び量があるかを調べてください。規定量の遊び量でない場合は、遊び量が15～25mmになるように、ターンバックルで調節してください。調節後はナットを確実に締付けてください。



17. ハンドルの点検・調整について

ハンドルを軽く左右に動かしたときの遊び量20～50mmの範囲にあるか調べてください。遊び量が適正でない場合、ハンドルが重くなったり、直進性が悪くなります。遊び量が適正でないときは、お買い上げいただいた販売店、お近くの当社支店で整備してください。

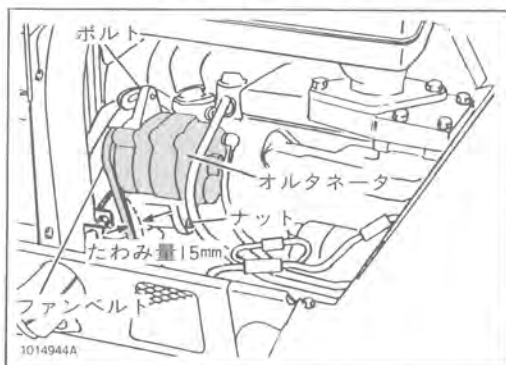


下記の事項を必ず守ってください。

ハンドルに著しいガタや遊びがあると、走行中、作業中に思わぬ事故の原因となります。必ず作業前に点検してください。

18. ファンベルトの点検・調整について

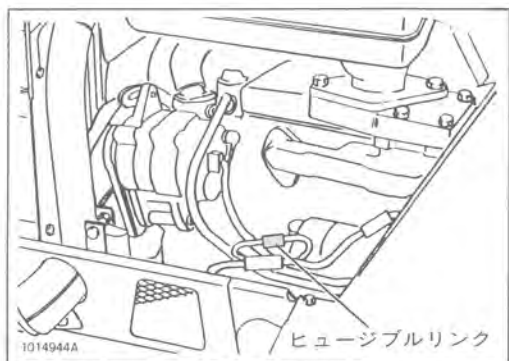
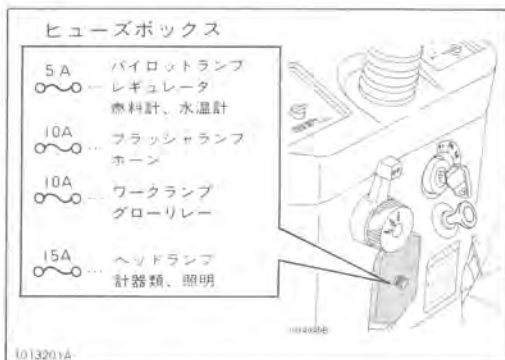
ボンネットを開け、サイドカバーを外し、ファンベルトの中間を指で押え、ベルトのたわみが10～15mmあるか、ベルトが損傷していないか調べてください。たわみが適正でないときは、オルタネータのボルト、ナットをゆるめ、オルタネータを移動させて張りを調節します。また、オルタネータをいっぱい動かしてもベルトがスリップするようでしたら、新しいベルトと交換してください。なお、新しいベルトは、交換後50時間目に必ず点検してください。



19. ヒューズ・ヒューズブルリンクの点検・交換について

ヒューズボックスの蓋を外して、ヒューズを点検してください。切れていれば、規定容量のものと交換してください。

また、エンジンを停止して、メインヒューズ(ヒューズブルリンク)を点検してください。ヒューズブルリンクはヒューズの一種で、配線回路(常時通電している回路)へ過大電流が流れた場合、溶断して電流をしゃ断します。溶断したら外被(ビニール)が変色しますので、購入先で点検を受けてください。



下記の事項を必ず守ってください。

ヒューズを交換するときは、必ず規定容量のものを使用し、他のものは使用しないでください。

20. タイヤの点検について

前・後輪の空気圧を標準空気圧に調整してください。また、タイヤに亀裂などがないか確認してください。

フロントウエイトなど前輪に荷重がかかるときは、前輪の空気圧を下表の最大圧でご使用ください。

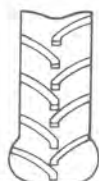
	タイヤ サイズ	空気圧 kg/cm ²	
		標準	最大
前輪	5-12	1.4	2.5
	5.00-12	1.2	2.5
後輪	8-16	1.0	1.6
	8-18	1.2	1.6



過多



標準



不足

21. 排気ガスの色について

エンジン始動時は、少し黒色の排気ガスがでますが、通常は無色です。

黒色…燃料が濃すぎるための不完全燃焼。

白色…エンジンオイルが燃焼しています。

ただし、気温の低い場合は水蒸気で白く見えることもあります。

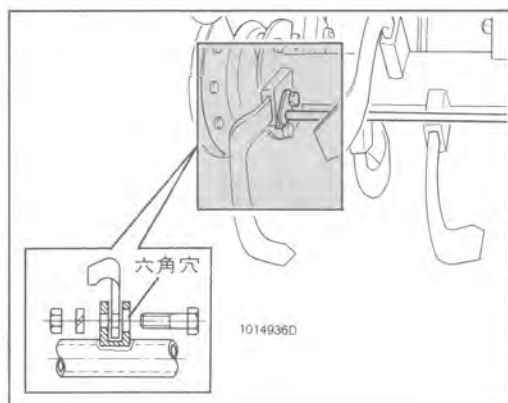
黒色、白色の排気ガスが負荷をかけなくても出るときは、販売店で整備してください。

ロータリについて —正しい着脱や点検を行なってください。

1. 耕うん爪の取付けかた

取付けかた

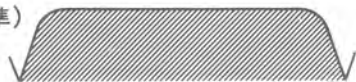
平面耕の場合、爪取付方向はブラケットの六角穴と逆方向の曲がりがるようにして、17×19のメガネレンチで確実にボルトを締付けてください。



爪配列

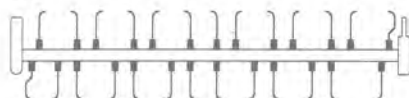
爪の配列は、作業に合わせてつぎの通り使いわけることができます。作業内容に合わせて選択してください。(※クロス部爪配列は爪ホルダー刻印に合わせてください。)

平面耕(標準)



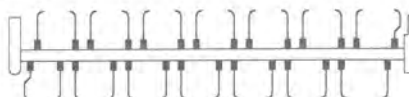
一般水田・畑・耕起作業、水田作かき作業、畑の細土・均平作業等に使用できます。

P110S



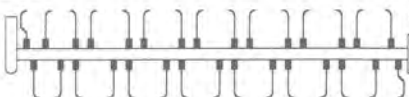
1014931D

P120S



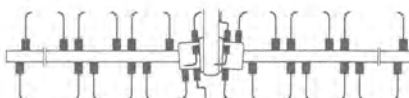
1014932C

P130S



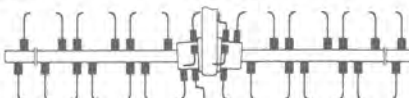
1014933B

P110C



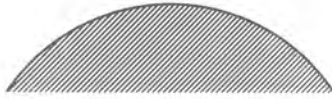
1014934A

P120C



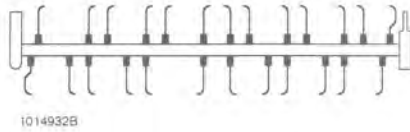
1014934D

内盛耕

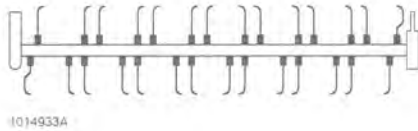


湿田耕起作業、幅広畦立時に使用できます。
また、溝をまたいでの畦崩し作業もできます。

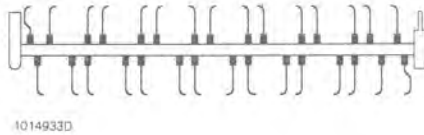
P110S



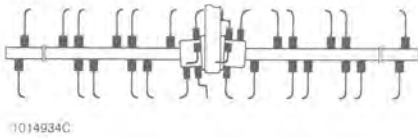
P120S



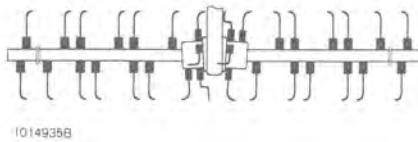
P130S



P110C



P120C

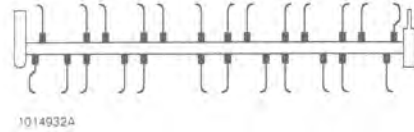


外盛耕

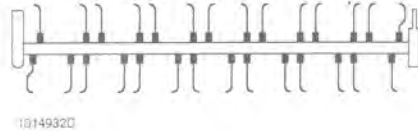


畦くずし、畦立作業に使用できます。

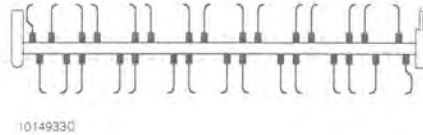
P110S



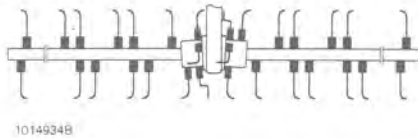
P120S



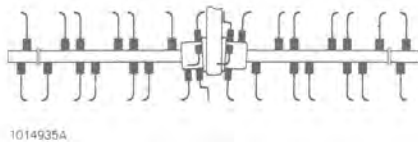
P130S



P110C



P120C

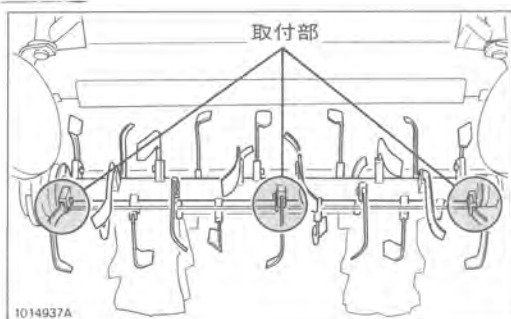
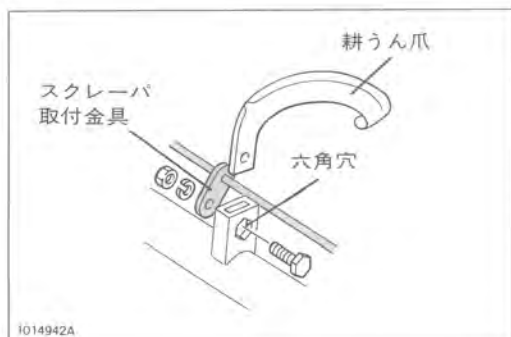


2. スクレーパーの取付けかた

荒起こしなどでワラをすき込む時、ロータリ爪軸への草、ワラの巻きつきを軽減します。爪軸が回転するとシャフトも同時に回転し、爪軸の見かけ上の径が大きくなり、草・ワラの巻きつきが少なくなります。

取付けかた

ロータリの爪取付部(3ヶ所)で、耕うん爪とスクレーパーの取付金具を共締めしてください。



3. ロータリの取外し・取付けかた

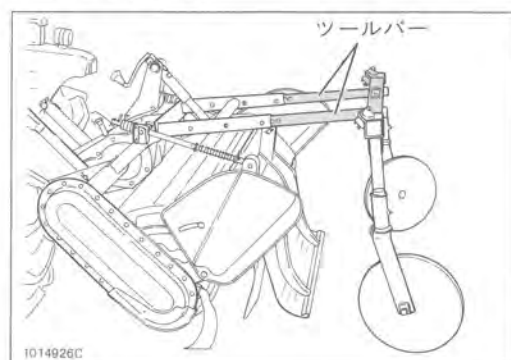
取外しかた

- ①エンジンを始動し、平坦で、固い場所を選んで、ロータリを作業機上下レバーで上げます。

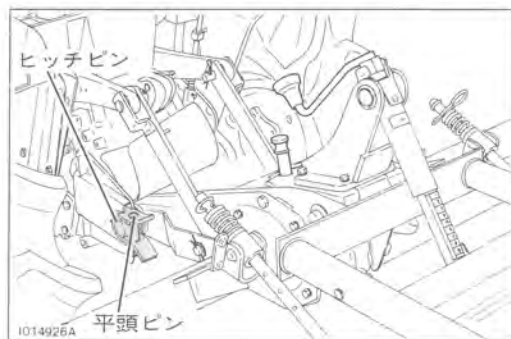


1014921A **平坦で、固い場所**

- ②エンジンを停止します。
- ③ツールバーをいちばん引き出した位置にセットします。



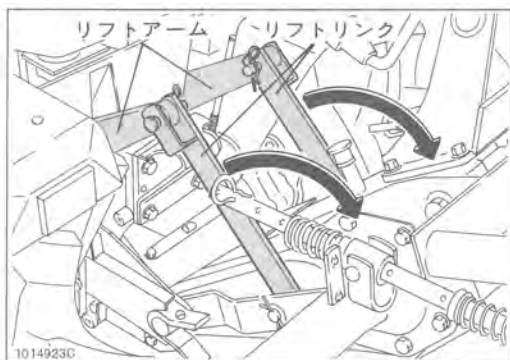
- ④ヒッチピン固定用平頭ピンを抜きます。



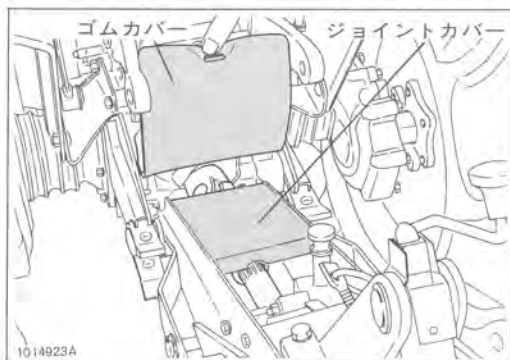
- ⑤作業機上下レバーで、ロータリを地面に接地するまで降ろします。



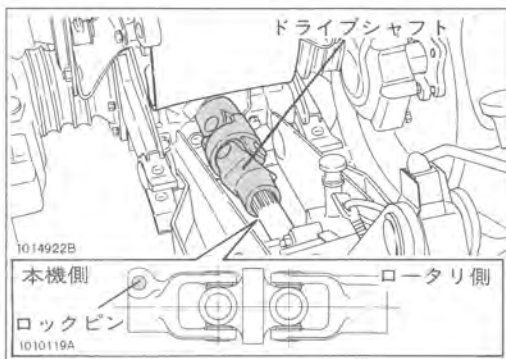
- ⑥左右のリフトリンクをリフトアームより取外します。



- ⑦ジョイントカバーを取外し、ゴムカバーを前方に上げます。



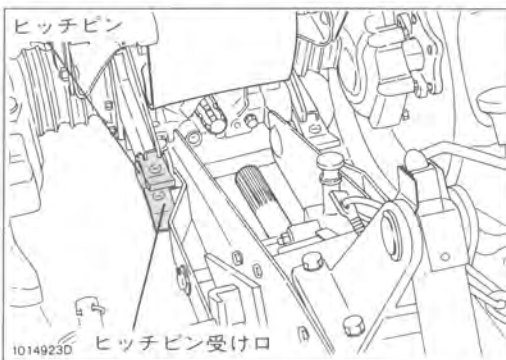
- ⑧ドライブシャフトのロックピンを押えてロータリ側に引き、ドライブシャフトを取外します。



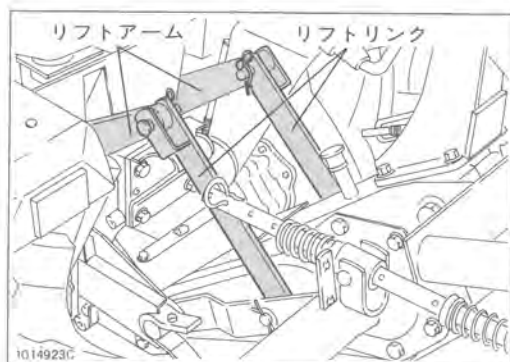
- ⑨トラクタを前進させ、ロータリ部を取外します。

取付けかた

- ①平坦で地面が固いところで、トラクタ後方の中心をロータリ前方の中心には合わせて止めます。
- ②トラクタ後部のヒッチピン受け口とロータリ部のヒッチピンの上下位置が合うように、調節ハンドルで同じ高さにしてください。
- ③トラクタ後部のヒッチピン受け口にロータリ側のヒッチピンが入るまでトラクタを後進させます。



- ④左右のリフトリンクをリフトアームにピンを差込んで連結します。

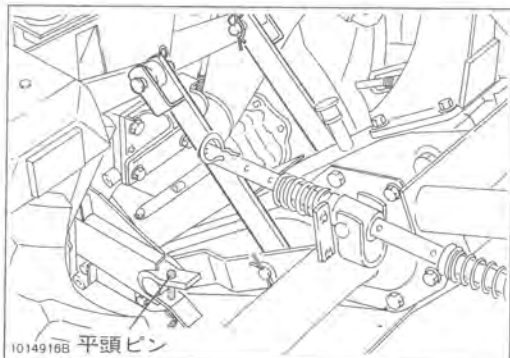


【注意】

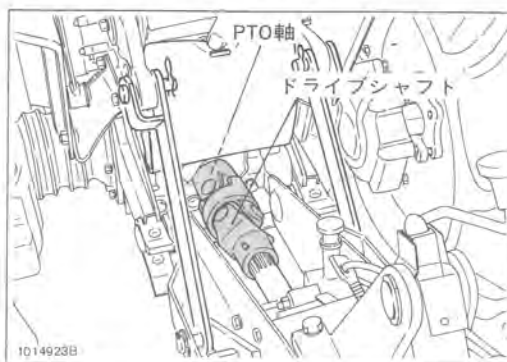
リフトリンクを片側だけ取付けた状態で、ロータリを上げないでください。ロータリの故障の原因になります。

- ⑤耕うん(PTO)変速レバー、主変速レバーが「中立」位置にあることを確認した後、エンジンを始動します。

- ⑥作業機上下レバーを「上」位置方向に操作し、ロータリを上げ、エンジンを停止して、ヒッチピン固定用の平頭ピンを差込みます。



- ⑦ロータリを下げ、爪を地面に接地させ、ロータリ側へドライブシャフトを差込み、ロックピンを押さえながらPTO軸にセットします。ロックピンが確実に軸のみぞにはまり込んでいるか確認してください。



- ⑧ジョイントカバーを取付けてください。



下記の事項を必ず守ってください。

- 作業機の脱着は、平坦な場所など安全な場所で、安全な方法で確実に行ってください。とくに夜間の作業機の着脱は安全で適切な照明を用いるなど、安全に留意して行ってください。
- ロータリ前側にささえ台を入れて、ロータリが前へたおれないようにしてください。
- トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。
- 作業機の下へもぐったり、足を踏み込んだりしないでください。
- PTO軸を使用しないときは、グリースを塗布した後、PTOカバーを取付けてください。
- リフトリンクを片側だけ取付けた状態で、ロータリを上げないでください。

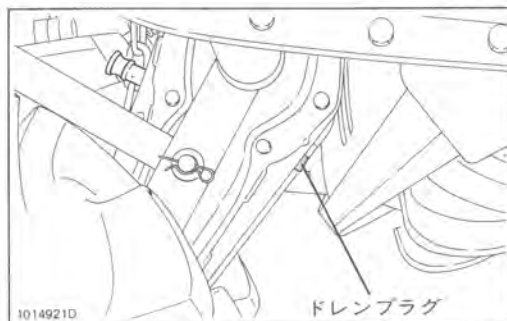
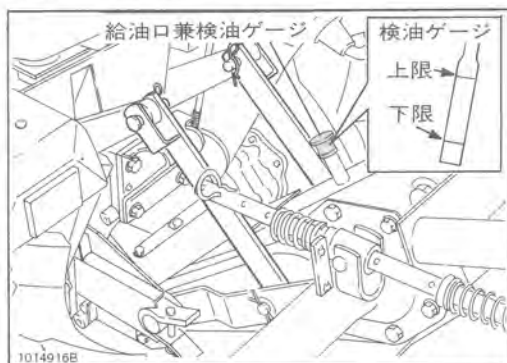
4. 定期点検一覧表

給油箇所	種類	容量		給油方法	50時間毎	200時間毎
		センターロータリ	サイドロータリ			
ロータリ チェーンケース	グリス	—	500g	—	—	P39参照
ロータリギヤ ボックス	ギヤ オイル	1.0ℓ	0.7ℓ	給油口 より	点検	交換

5. ロータリギヤボックスオイル の点検・交換のしかた

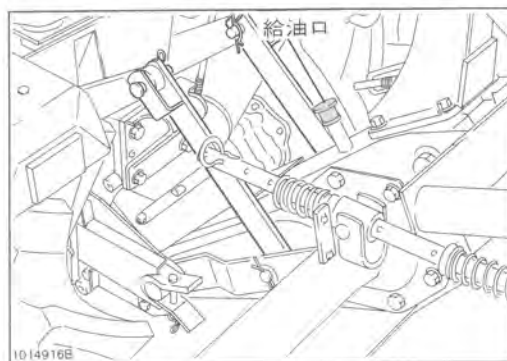
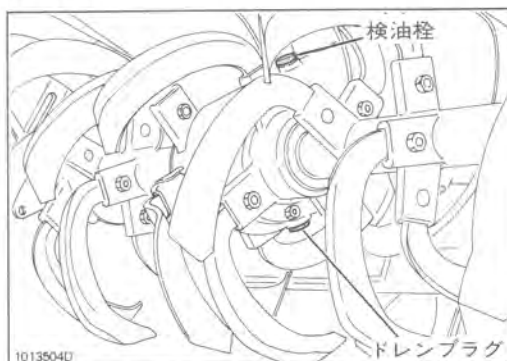
サイドロータリ

オイル量は、給油口の検油ゲージを外してオイルの有無を確認してください。オイルを交換するときは、ドレンプラグから排油して、給油は上部給油口より規定量給油してください。オイルはギヤオイルSAE#90を使用してください。

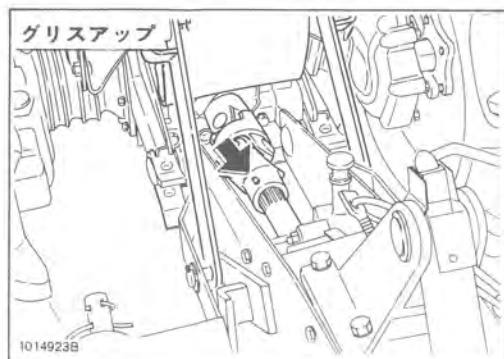


センターロータリ

オイル量は、ロータリを接地して、検油栓でオイルの有無を確認してください。オイル交換するときは、ドレンプラグから排油して、給油は、上部給油口より規定量給油してください。オイルはギヤオイルSAE#90を使用してください。

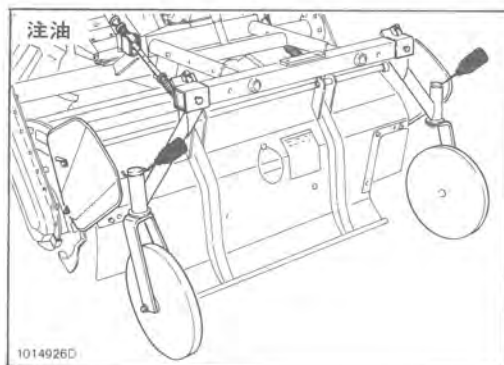


6. グリスアップ・注油



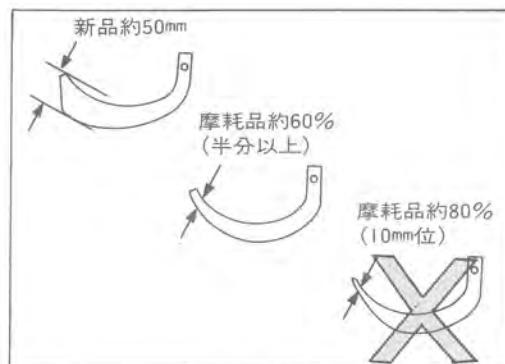
【注意】

代かき作業のときは、作業後必ずグリスアップを行ない、汚れたグリスを押し出してください。



7. 爪の交換時期

摩耗量が約半分を越えたら交換時期です。曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早めにお取り替えください。



不調診断

※もし機械の調子が悪いときは、表を参考にし、必ずエンジンを止めてから診断してください。

1. エンジン関係

状 況	点検箇所	処 置
キースイッチを回してもスタータが回らない。	クラッチペダルを踏み込んでいますか。	クラッチペダルを完全に踏み込んでから、メインスイッチを「START」に回してください。
	バッテリー液は規定量入ってますか。または放電していませんか。	バッテリー液を規定量補給し、満充電してください。
	バッテリー端子部のゆるみ外れ、腐蝕していませんか。	端子部を清掃し、確実に締め付けて、グリスを塗布し防錆してください。
	メインヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
	スイッチが故障していませんか。	サービス工場での修理、または交換してください。
	セルモータが故障していませんか。	サービス工場での修理、または交換してください。
スタータは回るがエンジンが始動しない。	燃料タンクに燃料が入っていますか。	満タンに給油し、エア抜きをしてください。
	燃料にエアが混入していませんか。	燃料のエア抜きを行なってください。
	燃料コックが「閉」になっていませんか。	燃料コックを「開」にしてください。
エンジンが不規則に回転する。	燃料系統にエアが混入していませんか。	エア抜きをしてください。
	燃料に水が混入していませんか。	水を抜き、新しい軽油と交換してください。
	噴射ノズルが詰まっていますか。	修理、または交換してください。
	燃料フィルタが目詰りしていませんか。	洗浄、または交換してください。

状 況	点検箇所	処 置
エンジンが過熱する (オーバーヒート)	冷却水が不足していませんか。	冷却水を補給してください。
	ファンベルトはゆるんでいませんか、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。
	ラジエータフィンが目詰りしていませんか。	清掃してください。
	エンジンオイルが不足していませんか。	オイルを補給してください。
	過負荷運転をしていませんか。	負荷を軽くしてください。
エンジンの力が出ない	エアクリーナが目詰りしていませんか。	エアクリーナを点検してください。
	ノズルが焼付きついでいませんか。	} サービス工場での修理をしてください。
	圧縮力が不足していませんか。	
	バルブクリアランスの調整は適正ですか。	
	噴射時期が悪くありませんか。	
運転中にエンジン油圧 ランプが点灯した	エンジンオイル量が少なくなっていますか。	オイルを規定量まで補給してください。
	エンジンオイルの粘度が低くありませんか。	適性粘度のオイルと交換してください。
	プレッシャスイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	オイルポンプが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
予熱ランプが点灯しない	ヒューズが溶断していませんか。	新しいヒューズと交換してください。
運転中に充電ランプが 点灯した	配線の異常がありませんか。	端子のゆるみ、汚損の点検、アース不良を修理してください。
	オルタネータが故障していませんか。	サービス工場での修理をしてください。
	ファンベルトのゆるみ、または破損していませんか。	ベルトの張り調整、または交換をしてください。

2. クラッチ・ブレーキ関係

状 況	点検箇所	処 置
クラッチがすべる、または切れない	ペダルの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキのききが悪い、または片ぎきする	ブレーキの遊び量は適正ですか。	ペダルの遊び量を調整してください。
ブレーキペダルの戻りが悪い、またはブレーキが鳴く	ブレーキ戻しスプリングが破損していませんか。	スプリングを交換してください。
	各摺動部のグリスが切れていませんか。	錆を落としてグリスアップしてください。

3. 油圧関係

状 況	点検箇所	処 置
作業機が上がらない	降下速度調節グリップが「閉」になっていませんか。	降下速度調節グリップを「開」にしてください。
	ミッションオイルが不足していませんか。	規定量まで補給してください。
	吸入パイプ系統からエアの吸い込みがありませんか。	フィルタケースや取付部などを増し締めし、パイプに亀裂が発生していたり、Oリングが破損していれば交換してください。
	オイルフィルタが目詰りしていませんか。	清掃または交換してください。
	油圧ポンプが故障してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。またはOリングは破損してはいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。
作業機が下がらない	降下速度調節グリップが「閉」になっていませんか。	降下速度調節グリップを「開」にしてください。
	コントロールバルブがゴミをかんでいませんか。	サービス工場で修理してください。
	シリンダが破損していませんか。	サービス工場で修理してください。

4. 電装関係

状 況	点検箇所	処 置
前照灯が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ソケットから配線が外れていませんか。	点検セットしてください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
方向指示器が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	方向指示器ユニットが故障していませんか。	方向指示器ユニットを交換してください。
	接触が悪くありませんか。	アースおよびターミナルの点検清掃をしてください。
ランプ類が点灯しない	電球が切れていませんか。	電球を交換してください。
	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	配線の接続が悪くありませんか。	点検し確実に接続してください。
	スイッチが故障していませんか。	スイッチを交換してください。
	アースの状態が悪くありませんか。	アース線を確実に車体に締めつけてください。
	バッテリーが放電していませんか。	充電してください。
警告音が鳴らない	ヒューズが切れていませんか。	ヒューズを交換してください。
	ホーンスイッチの接触が悪くありませんか。	ホーンスイッチを確認してください。

5. ロータリ関係

状 況	点検箇所	処 置
エンジンをかけるとロータリが上がり、リリーフ音が出る	リヤカバーが「上」げの状態になっていませんか。	リヤカバーを下げてください。
作業機上下レバーを、「下」にしても作業機が下らない	降下速度調節グリップが「閉」になっていませんか。	降下速度調節グリップを「開」にしてください。

仕様

項目		形式		備考		
		135型	155型			
重量	車両重量 (kg)	476	498			
	荷重 (kg)	前輪	265	275		
		後輪	211	223		
	附荷重量 (kg)	後輪	20×2 + 25×2 = 90		アタッチメント	
本体		20×3 = 60		アタッチメント		
機関出力 (PS/rpm)		13.5/2500	14.9/2500			
形状		農工用トラクタ				
車種		小型特殊自動車				
性能	走行速度 (km/hr)	前	1速	0.72	0.74	
			2速	1.10	1.13	
			3速	1.42	1.47	
			4速	2.16	2.22	
		進	5速	4.36	4.49	
			6速	6.62	6.82	
			7速	8.53	8.80	
			8速	13.0	13.4	
	後進	1速	0.54	0.55		
		2速	1.06	1.09		
		3速	3.24	3.34		
		4速	6.34	6.54		
全長		2015	2040	後輪タイヤ		
全幅(標準性能)		990	1040			
全高(シート)		1200	1220			
軸距(標準状態)		1207	1207			
寸法	輪距	前輪(mm)	740	740		
		後輪(mm)	750・800・850	800・850・900		
	最低地上高 (mm)	275 (フロントアクスル)	290 (フロントアクスル)			
機関	銘柄型式	L3C	L3E			
	種類	ディーゼル				
	冷却方式	水冷ラジエタ				
	シリンダ数	3				
内径×行程 (mm)		φ70×70	φ76×70			

項目		形式		備考	
		135型	155型		
機関	総排気量 (cc)		808	952	
	燃料系統	噴射ポンプ	ポッシュ		
		噴射弁形式	スロットル		
		燃料	ディーゼル軽油		
	燃料タンク容量 (ℓ)		13		
	潤滑系統	潤滑方式	トロコイドポンプ圧送式		
		潤滑油量 (ℓ)	2.9		
	冷却水量 (ℓ)		3.9		サブタンクを含まず
	電気系統	充電発電機 (V-A)	12-40		
		始動発電機 (V-KW)	12-1.6		
		蓄電池 (V-Ah)	12-45		
	主クラッチ		乾式単板		ダイヤフラム方式
変速機潤滑油量 (ℓ)		7.0			
差動装置形式		傘歯車式(デフロック付)			
終減速機形式		平衡車			
走行装置	車輪	前輪	5-12	5.00-12	
		後輪	8-16H	8-18H	H:ハイラグ
	かじ取装置	ボールナット式			
	足ブレーキ	機械式湿式ディスクブレーキ			
駐車ブレーキ		ペタルロック式			
運転装置		計器類及び照明装置		エンジン回転計、積算時間計、燃料計、ハイロッドランプ(予熱、充電、エンジン油圧、水温、方向指示) 前照灯、警告音、方向指示灯	
動力取出軸		回転方向		右回り	
軸寸法 (mm)		35(JIS軸)			
軸回転速度 (rpm)		584・771・1191			
その他駆動部		なし			
けん引装置形式		ヒン固定式		アタッチ	
作業装置	装着装置の種類		2P		
	標準ロータリ耕幅 (mm)		1200	1300	サイド
	油圧制御方式		PAC		

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります

ロータリの仕様

項目 \ 名称	P110S	P120S	P130S	P110C	P120C
装着方式	2P			2P	
駆動方式	サイドドライブ			センタードライブ	
耕うん幅 (mm)	1100	1200	1300	1100	1200
耕うん爪数 (本)	26	28	30	30	32
爪回転直径 (mm)	450			450	
残耕処理装置	-	-	-	クロスセンタ	
重量 (kg)	133	139	145	143	149

※この仕様は改良などにより、予告なく変更することがあります。

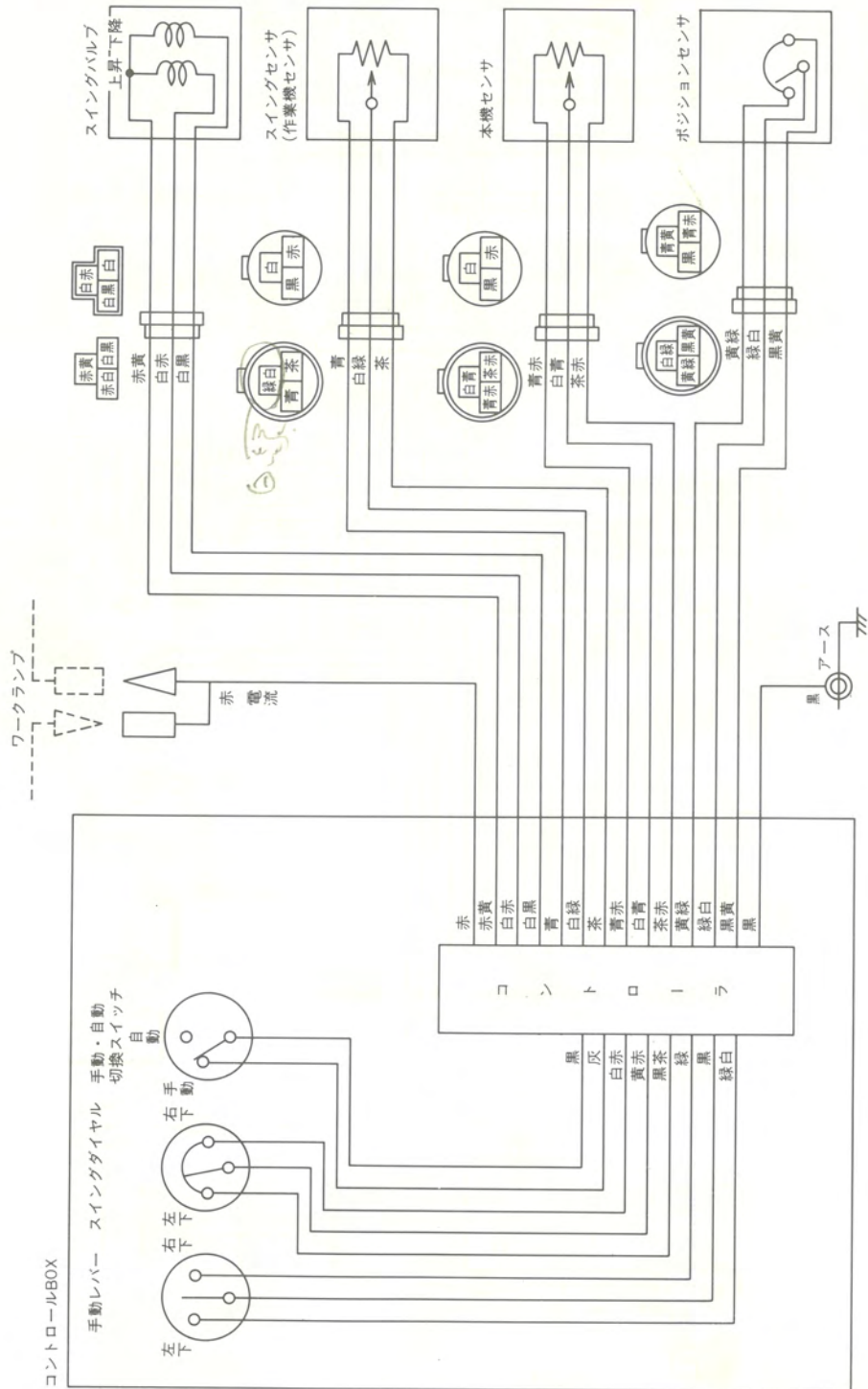
全巾
1242mm

全巾
1186mm

標準付属品

No.	品名	サイド ロータリ	センター ロータリ	ロータリ ナシ	備考
1	ス パ ナ 8×10	1	1	1	
2	ス パ ナ 12×14	1	1	1	
3	ス パ ナ 17×19	1	1	1	
4	ス パ ナ 22×24	1	1	1	
5	ブ ラ イ ヤ 150	1	1	1	
6	メ ガ ネ レ ン チ 17×19	1	1	1	
7	ド ラ イ バ(差換式)	1	1	1	
8	キー(スタートスイッチ用)	1	1	1	予備品
9	バックミラー R CMP	1	1	1	
10	ボ ル ト 8×20(SW付)	2	2	2	
11	PTOシャフトカバー	1	1	1	
12	品質保証券	1	1	1	取扱説明書に折り込み
13	取扱説明書	1	1	1	
14	定期点検整備表	1	1	1	
15	爪 セ ッ ト(サイド)	1			ボルト・ナット・バネ座金付
16	爪 セ ッ ト(センタ)		1		ボルト・ナット・バネ座金付
17	ガラススクレーパ(サイド)	1			
18	ガラススクレーパ(センタ)		2		
19	サイドリヤカバー(右)	1	1		
20	サイドリヤカバー(左)	1	1		
21	スクレーパ(ロータリパイプ)	1	1		

JUSTマチック装置機





未来をひらく

本 社 島根県八束郡東出雲町大字揖屋町6 6 7-1 〒699-01 ☎ (0852) 52-2111代

東京本社 東京都千代田区神田錦治町3-6-3 神田三菱ビル 〒1 0 1 ☎ (03) 258-0111代

札幌支店 千歳市上長郡1 0 4 6
〒0 6 6 ☎ (0123) 22-1211

仙台支店 宮城県多賀城市宮内2-3-1
〒9 8 5 ☎ (022) 364-1181

秋田営業所 秋田市寺内字神屋敷2 9 5-2 8
〒0 1 1 ☎ (0188) 46-6530

東京支店 埼玉県北葛飾郡鷺宮町桜田2-1 3 3-4
〒340-02 ☎ (0480) 58-9511

新潟営業所 新潟県西蒲原郡黒崎町大字山田字中道上
〒950-11 ☎ (025) 267-6112

千葉営業所 千葉県千葉市松波1丁目1 1-3
〒2 6 0 ☎ (0472) 56-7004

名古屋支店 名古屋市緑区浦里3-2 8 3
〒4 5 8 ☎ (052) 892-5151

三重営業所 三重県津市島崎町2 9 6
〒5 1 4 ☎ (0592) 27-1553

北陸営業所 石川県松任市源兵島町1 8 7
〒9 2 4 ☎ (0762) 77-0064

西日本支店 岡山県邑久郡邑久町豆田字東大上161番1
〒701-42 ☎ (08692) 4-0808

広島営業所 東広島市西条町大字御園字湯之元6400-5
〒7 2 4 ☎ (0824) 22-6767

島根営業所 島根県八束郡東出雲町大字揖屋町6 2 1
〒699-01 ☎ (0852) 52-4546

九州支店 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1
〒8 4 1 ☎ (0942) 85-2821

熊本営業所 熊本県熊本市下現川町2 2 0 2-1
〒861-55 ☎ (096) 322-1142

北海道サービスセンター 千歳市上長郡1 0 4 7
〒0 6 6 ☎ (0123) 23-5521

東北サービスセンター 宮城県多賀城市宮内2-3-1
〒9 8 5 ☎ (022) 367-5821

関東サービスセンター 埼玉県北葛飾郡鷺宮町桜田2-1 3 3-4
〒340-02 ☎ (0480) 58-9021

新潟部品センター 新潟県西蒲原郡黒崎町大字山田字中道上
〒950-11 ☎ (025) 267-1244

中部サービスセンター 名古屋市緑区浦里3-2 8 3
〒4 5 8 ☎ (052) 892-4591

岡山部品センター 岡山県邑久郡邑久町豆田字東大上161番1
〒701-42 ☎ (08692) 4-0811

中国サービスセンター 島根県八束郡東出雲町大字揖屋町6 6 7-1
〒699-01 ☎ (0852) 52-3663

九州サービスセンター 佐賀県鳥栖市藤木町字若桜7-1
〒8 4 1 ☎ (0942) 85-2822

九州部品センター 佐賀県鳥栖市真木町大字田中後1 6 6 1
〒8 4 1 ☎ (0942) 82-6517

島根講習所 島根県八束郡東出雲町大字揖屋町1 2 4-1
〒699-01 ☎ (0852) 52-2794